

5 アンケート調査結果の概要

(1) 調査目的

横須賀市では、「横須賀障害者福祉計画（第4期横須賀市障害福祉計画を含む）」を策定するにあたり、市内の障害者の皆様の生活の実態や課題を把握するためアンケート調査を実施しました。

(2) 調査対象

平成26年4月1日現在の身体障害児者、知的障害児者、精神障害者、難病患者団体を対象に、次の条件で対象者を抽出しました。

①身体障害児者

65歳未満の身体障害者手帳所持者の25%である976名を無作為抽出し、対象としました。

②知的障害児者

療育手帳所持者の25%である750名を無作為抽出し、対象としました。

③精神障害者

65歳未満の精神障害者保健福祉手帳所持者の25%である637名を無作為抽出し、対象としました。

④難病

特定疾患医療受給者証所持者（難病）については、名簿を提供していただいた難病患者団体の会員及び、保健所健康づくり課の窓口で配布したアンケート用紙をお受け取りいただいた方85名を対象としました。

(3) 調査期間・方法

発 送：平成26年8月 6日（水）

投函期限：平成26年8月20日（水）

最終締切：平成26年8月29日（金）

調査方法：郵送配布及び郵送回収による郵送調査

(4) 回収結果

	発送数	回収数	回収率(%)
身体障害	976	582	59.6
知的障害	750	451	60.1
精神障害	637	337	52.9
難病	85	64	75.3
合計	2,448	1,434	58.6

(5) 調査項目

設問内容		身体	知的	精神	難病	備考
回答者について	回答者	1	1	1	1	
	年齢	2	2	2	2	
	性別	3	3	3	3	
	障害者手帳の種類	4	4	4	5	
	主な身体障害	5	5	5	6	
	障害支援区分の認定	6	6	6	7	
	特定疾患の種類				4	
	難病、発達障害、高次脳機能障害の診断	7	7	7	8	
	現在の暮らし	8	8	8	9	
	一緒に暮らしている人	9	9	9	10	
	今後の暮らし	10	10	10	11	
	地域で暮らす条件	11	11	11		
	日常生活での介助の必要	12	12	12	12	
	介助者	13	13	13	13	
収入の種類	14	14	14	14		
福祉サービスについて	利用状況	15	15	15	15	
	満足度	15	15	15	15	
	不満の理由	15	15	15	15	
	ホームヘルプサービス	①	①	①		
	ガイドヘルプサービス	②	②	②		
	短期入所	③	③	④		
	入所施設	④	④			
	通所施設・デイサービス	⑤	⑤	⑤		
	グループホーム	⑥	⑥	⑥		
	障害者相談サポートセンター	⑦	⑦	⑦		
	地域作業所	⑧	⑧	⑧		
	訪問入浴サービス	⑨				
	手話通訳者の派遣	⑩				
	要約筆記者の派遣	⑪				
	日常生活用具の給付	⑫				
	補装具の交付・修理	⑬				
	住宅改修費の助成	⑭				
	成年後見制度	⑮	⑨	⑨		
	デイケア【精神障害】			③		
	ホームヘルプサービス【難病】				①	
	短期入所【難病】				②	
	訪問相談・指導【難病】				③	
	日常生活用具の給付【難病】				④	
	相談会【難病】				⑤	
	交流会・講演会【難病】				⑥	
	障害者相談サポートセンター【難病】				⑦	
利用していない理由	16	16	16	16		
今後利用したいサービス	17	17	17	17	選択肢は障害別に異なる	
日中活動	外出頻度	18	18	18	18	
	外出時同伴者	19	19	19	19	
	外出の目的	20	20	20	20	
	外出時に困ること	21	21	21	21	
	平日の日中の過ごし方	22	22	22	22	精神のみ高校以下の通学の選択肢がない
	普段の生活に必要な支援	23	23	23	23	

設問内容		身体	知的	精神	難病	備 考
仕事について	現在仕事をしているか	24	24	24	24	仕事は福祉施設や作業所を除く
	仕事をしていない事情	25	25	25	25	
	今後仕事をしたいか	26	26	26	26	
	今後仕事をしくない理由	27	27	27	27	
	現在の仕事の内容	28	28	28	28	
	仕事を見つけた方法	29	29	29	29	
	週あたり日数(就労実態)	30	30	30	30	
	1日あたり時間(就労実態)	31	31	31	31	
	今後希望する働き方	32	32	32	32	
	仕事を選ぶ条件	33	33	33	33	
	週あたり日数(希望)	34	34	34	34	
	1日あたり時間(希望)	35	35	35	35	
	充実してほしい取り組み	36	36	36	36	
	医療ケア	必要な医療ケア	37	37		37
自立支援医療受給者証の有無【精神】				37		
医療の状況【精神】				38		
通院回数の変化【精神】				39		
教育等	通院が減った、やめた事情【精神】			40		
	教育・療育に不足していること	38	38	41	38	
	支援シートについて	39	39	42	39	
相談	個別の指導計画について	40	40	43	40	
	相談相手	41	41	44	41	
権利	情報の入手先	42	42	45	42	
	差別や嫌な思い	43	43	46	43	
	差別や嫌な思いの場所	44	44	47	44	
災害時	成年後見制度	45	45	48	45	
	一人で避難できるか	46	46	49	46	
	助けてくれる人の有無	47	47	50	47	
	災害時の不安	48	48	51	48	
自由記載欄		49	49	52	49	施策体系ごとに整理

* 「身体、知的、精神、難病」は順に、身体障害児者、知的障害児者、精神障害者、特定疾患医療受給者を表す。

* 同欄の数値は、設問番号を表す。

(6) 調査結果の見方

① 図中のかっこ内の人数は、設問・各選択肢への回答者数を示しています。

② 図中の小数点第1位まである数値は、設問への回答者に占める各選択肢への回答者数の割合を示しています。(単位：%)

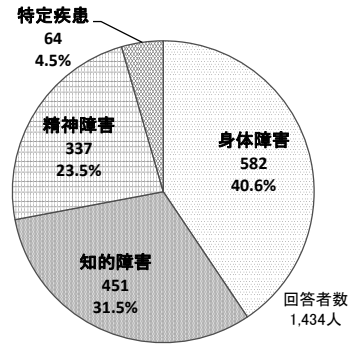
1. 回答者について

(1) 障害種類

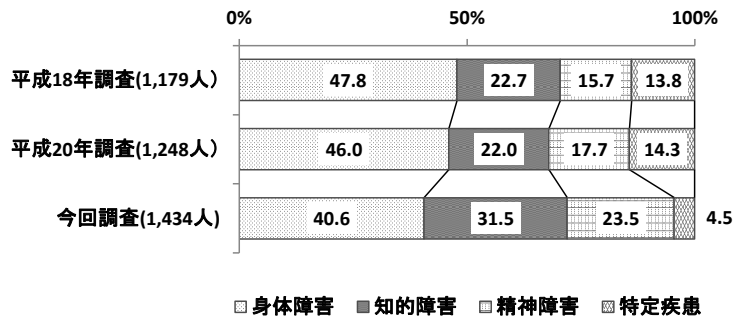
回答者の障害種類は、身体障害（40.6%）、知的障害（31.5%）、精神障害（23.5%）、特定疾患（4.5%）で、身体障害が4割を占めています。

平成18年及び20年調査と比較すると、知的障害、精神障害の割合が増え、身体障害、特定疾患の割合は減っています。

障害種類



障害種類、前回との比較

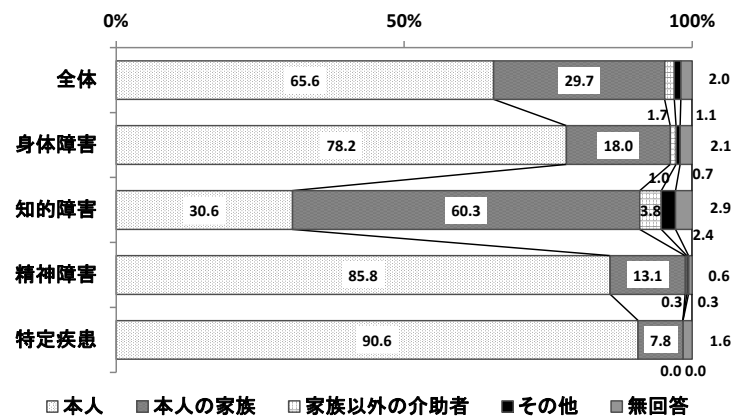


(2) 主にこのアンケートに回答する方はどなたですか。(〇は1つ)

アンケートの回答者は、全体では65.6%が「本人（代筆を含む）」、29.7%が「本人の家族」となっています。

知的障害では「本人の家族」の比率が高く60.3%となっています。

アンケートの回答者、障害別



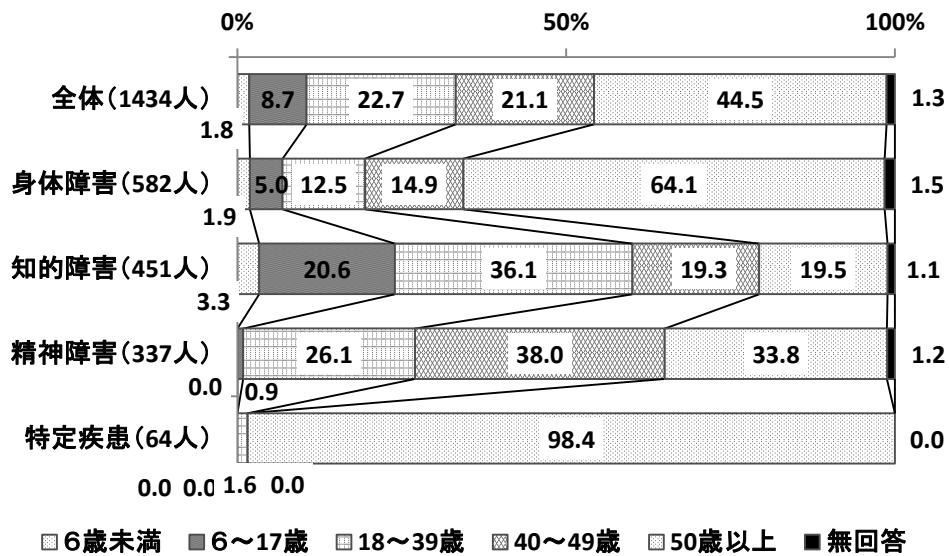
(3) 年齢（平成 26 年 4 月 1 日現在）と性別

回答者の年齢は、50 歳以上が 44.5%で半数近くを占めています。50 歳未満は合わせて 54.3%です。

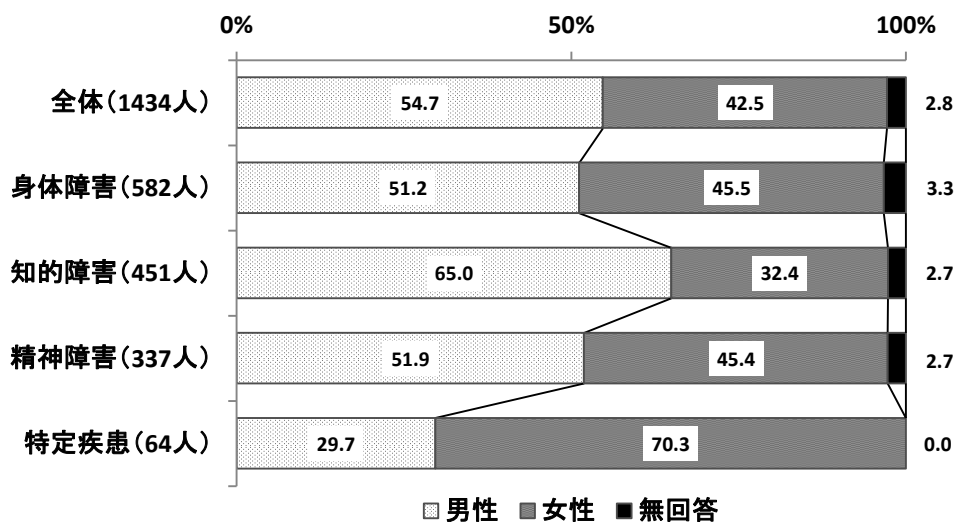
特定疾患では 98.4%、身体障害では 64.1%が 50 歳以上と中高年層の比率が高くなっていますが、知的障害と精神障害では 50 歳未満の比率が高く、知的障害では 18 歳～39 歳の若年の比率が 36.1%、精神障害では 40 歳～49 歳の比率が 38.0%となっています。

性別は、知的障害では男性が 65.0%で女性より多くなっていますが、身体障害と精神障害ではやや男性が多く、特定疾患では女性が 7 割を占めています。

年齢、障害別



性別、障害別

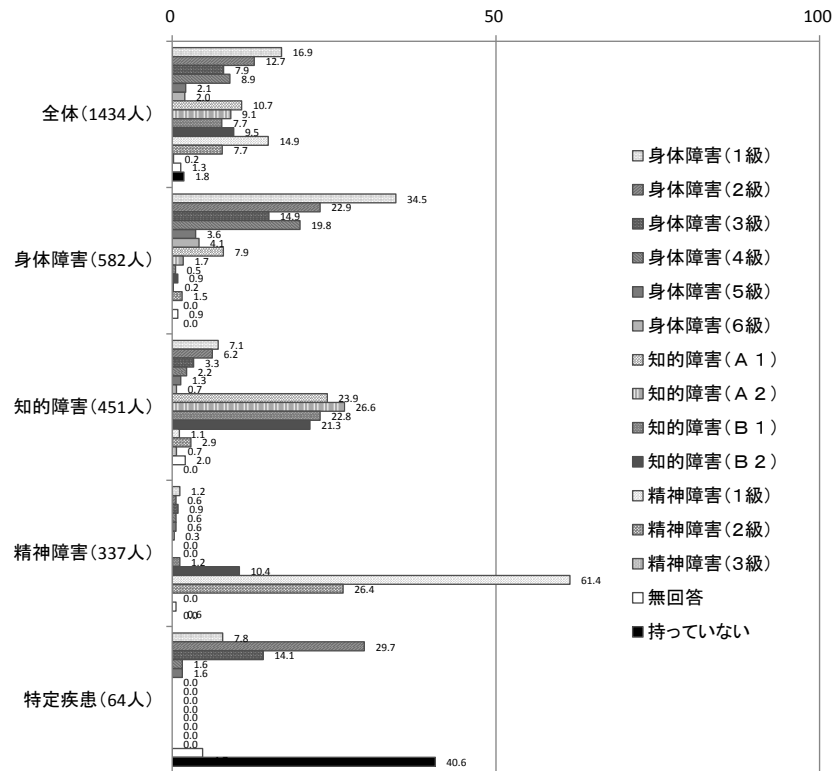


(4) あなたが持っている障害者手帳の手帳種別とその障害程度は次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

持っている手帳の種類は、身体障害では「身体障害者手帳（1級）」(34.5%)、知的障害では「療育手帳 A2」(26.6%)、精神障害では「精神障害者保健福祉手帳（1級）」(61.4%)が多くなっています。

特定疾患では、40.6%が「持っていない」としてはいますが、29.7%が「身体障害者手帳（2級）」を持っています。

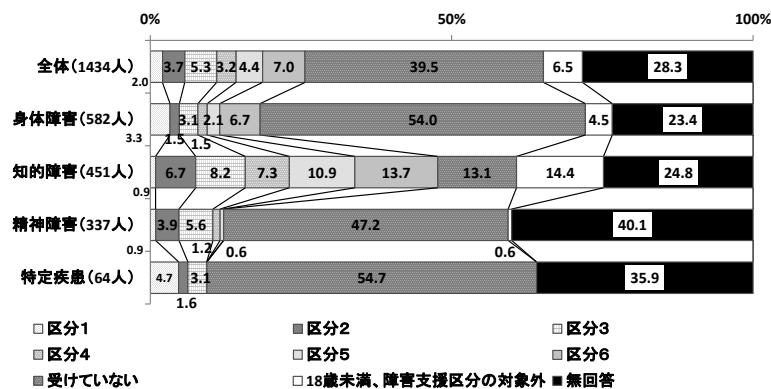
障害者手帳の種類と等級、障害別(複数回答)



(5) あなたは障害支援区分の認定を受けていますか。(〇は1つ)

全体の4割の人が障害支援区分の認定を「受けていない」としてはいます。障害別に見ると、身体障害（54.0%）、精神障害（47.2%）、特定疾患（54.7%）に「受けていない」とする人が多く、知的障害では13.1%となっています。

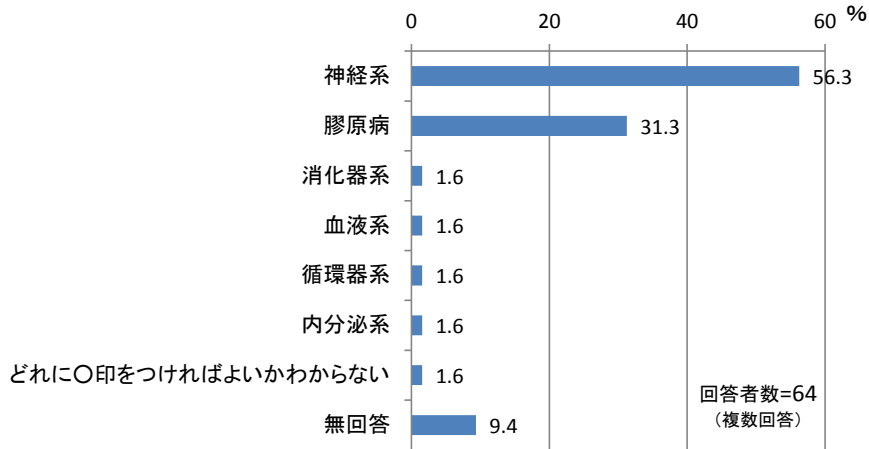
障害支援区分の認定、障害別



(6) あなたの特定疾患系等をおたずねします。(〇はいくつでも)【特定疾患の方】

特定疾患の種類は、56.3%が神経系、31.3%が膠原病となっています。

特定疾患の種類【特定疾患の方】(複数回答)



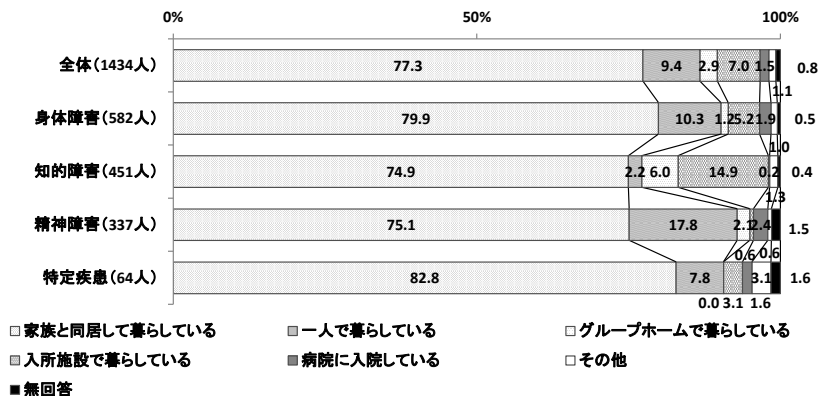
(7) あなたは、現在、どのように暮らしていますか。(〇は1つ)

現在、どのように暮らしているかについて、全体の77.3%は「家族と同居して暮らしている」、9.4%は「一人で暮らしている」としています。精神障害では他の障害と比べて「一人で暮らしている」比率が17.8%とやや高くなっています。また、知的障害では14.9%が「入所施設で暮らしている」としており、他の障害と比べて比率が高くなっています。

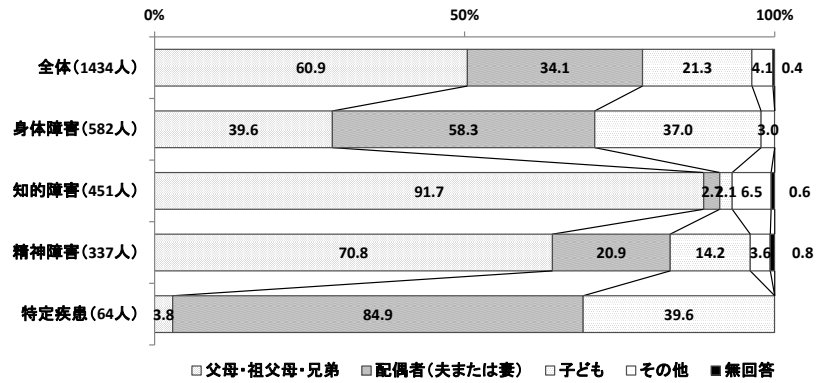
「一緒に暮らしている人」は、全体の60.9%が「父母・祖父母・兄弟」としており、身体障害の58.3%と特定疾患の84.9%は配偶者(夫または妻)としています。また、知的障害の91.7%、精神障害の70.8%が「父母・祖父母・兄弟」としています。

年齢別に見ると、年齢が低いほど「家族と同居して暮らしている」比率が高く、年齢が高いほど「一人で暮らしている」比率が高くなり、グループホーム、入所施設、病院などで暮らしている比率も増えていくことがわかります。

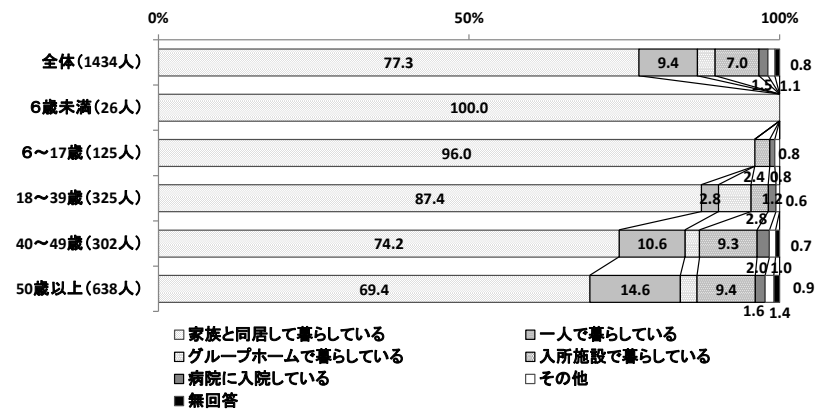
現在の暮らし、障害別



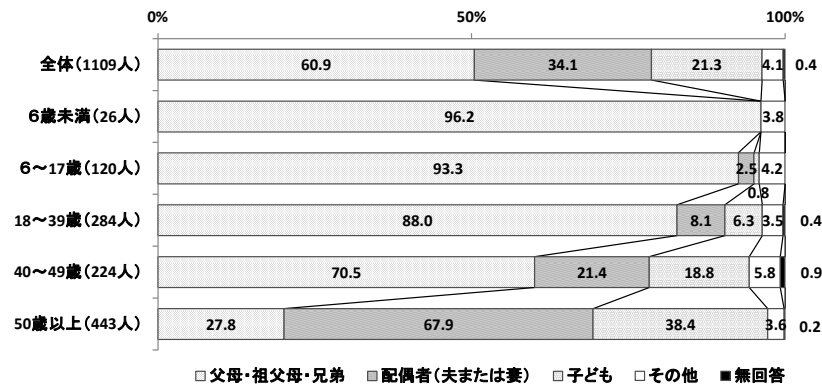
一緒に暮らしている人、障害別



現在の暮らし、年齢別



一緒に暮らしている人、年齢別

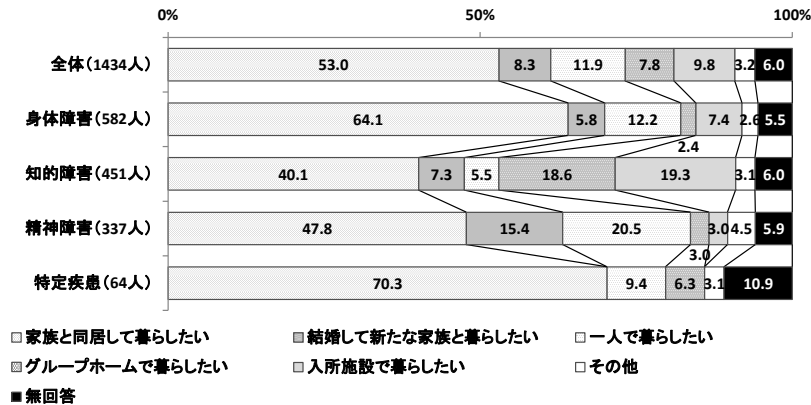


(8) あなたは、今後、どのように暮らしたいですか。(〇は1つ)

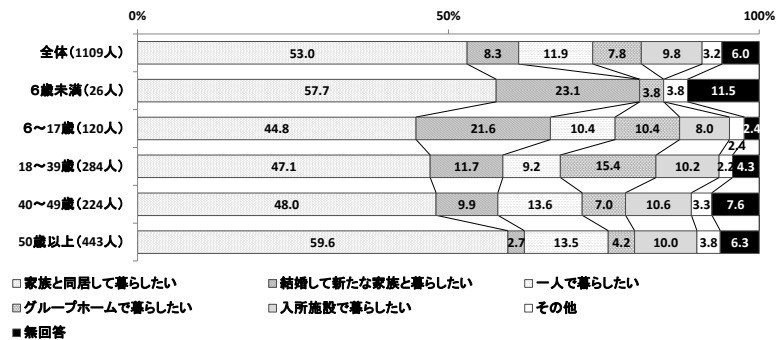
今後の暮らしについて、全体では「家族と同居して暮らしたい」(53.0%)が半数以上で、「一人で暮らしたい」が11.9%になっています。

知的障害ではグループホームや入所施設での暮らしを望む人も多く、「グループホームで暮らしたい」は18.6%、「入所施設で暮らしたい」は19.3%で、合わせると4割近くを占めています。

今後の暮らし、障害別



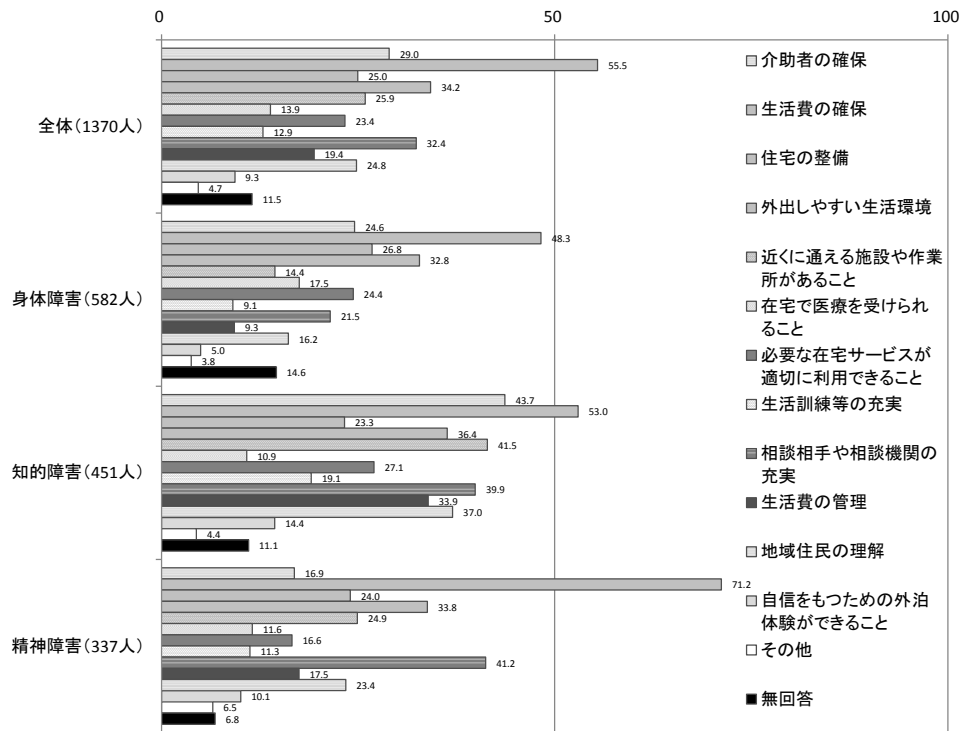
今後の暮らし、年齢別



(9) あなたは、地域で暮らす条件として、どのようなことを希望しますか。(〇はいくつでも)

地域で暮らす条件として、「生活費の確保」が身体障害で 48.3%、知的障害で 53.0%、精神障害で 71.2%と、いずれの障害においても最も上位にあげられています。

地域で暮らす条件(複数回答)

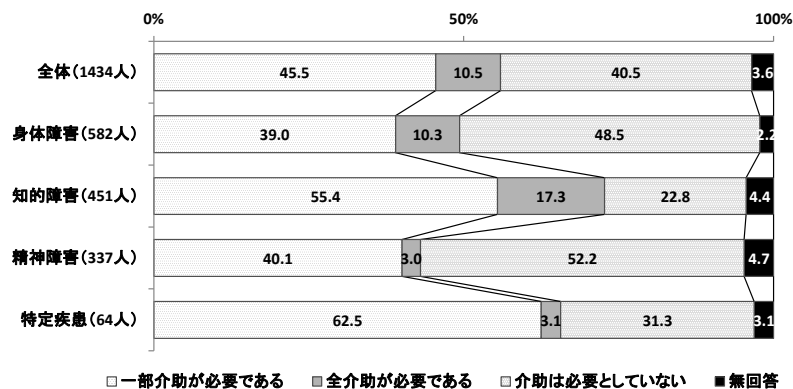


(10) あなたは、日常生活の中で介助を必要としていますか。(〇は1つ)

日常生活の中で介助を必要としている比率は、全体では「一部介助が必要である」45.5%、「全介助が必要である」10.5%となっており、合わせると 56%が何らかの介助を必要としています。

知的障害、特定疾患では何らかの介助を必要とする比率が高くなっています。特に知的障害では7割以上が介助を必要としており、「全介助が必要である」とする比率が17.3%で、他の障害に比べて高くなっています。

日常生活での介助の必要



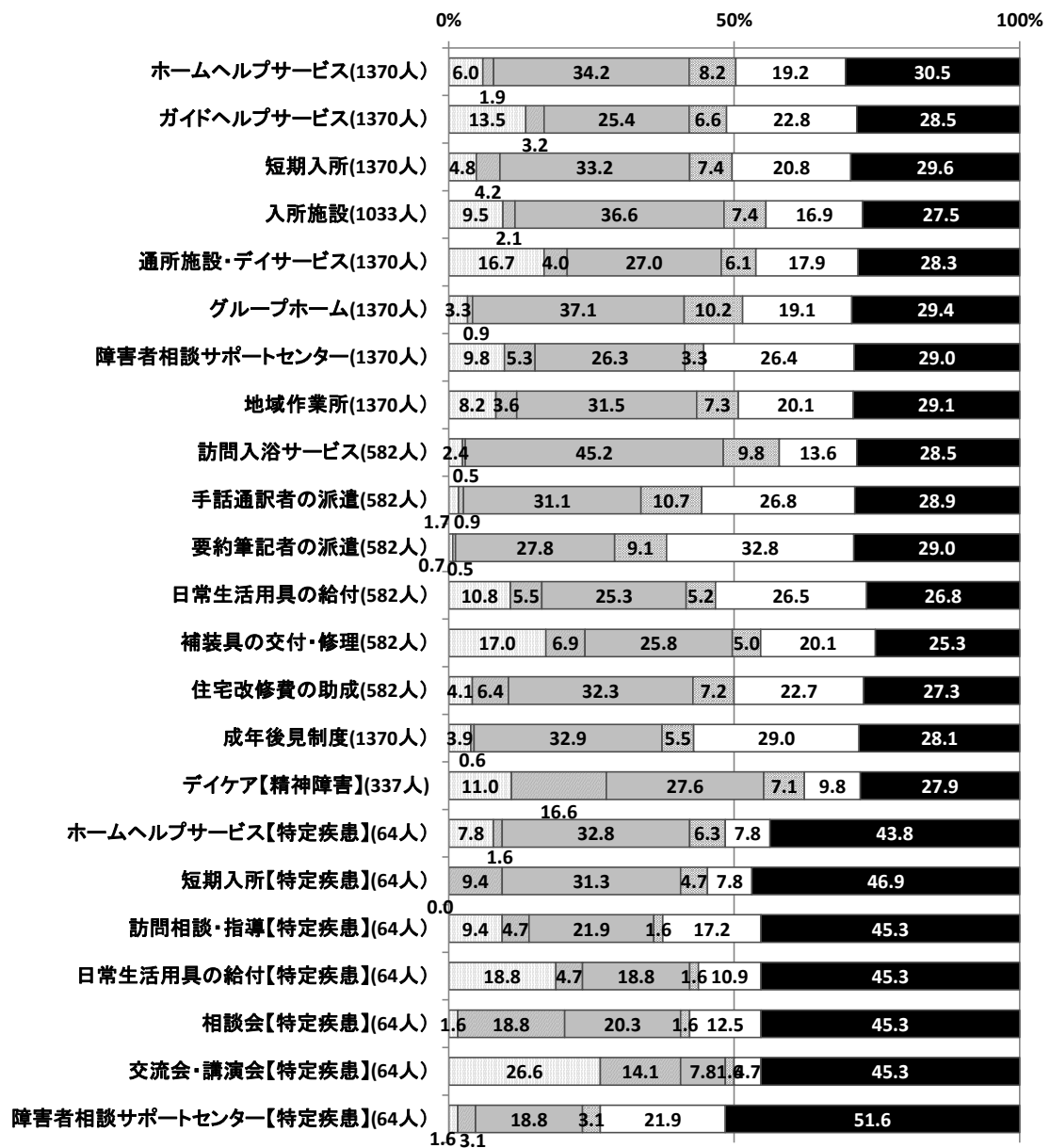
2. 福祉サービスについて

(1) サービス内容の説明をお読みいただき、質問についてお答えください。
 現在、福祉サービス等を利用していない方も、ひとつずつお答えをお願いします。
 ①利用状況

福祉サービスの利用状況は下図の通りです。

対象者の5%以上の人を利用している福祉サービスは、ホームヘルプサービス(6.0%)、ガイドヘルプサービス(13.5%)、入所施設(9.5%)、通所施設・デイサービス(16.7%)、障害者相談サポートセンター(9.8%)、地域作業所(8.2%)、日常生活用具の給付(10.8%)、補装具の交付・修理(17.0%)、デイケア【精神障害】(11.0%)、ホームヘルプサービス【特定疾患】(7.8%)、訪問相談・指導【特定疾患】(9.4%)、日常生活用具の給付【特定疾患】(18.8%)、交流会・講演会【特定疾患】(26.6%)となっています。

福祉サービスの利用状況



□ 利用している □ 利用したことがある □ 知っているが利用しない □ 利用できない □ 知らない ■ 無回答

② 満足度

福祉サービスを「利用している」と「利用したことがある」とする利用経験のある方の満足度は下図の通りです。

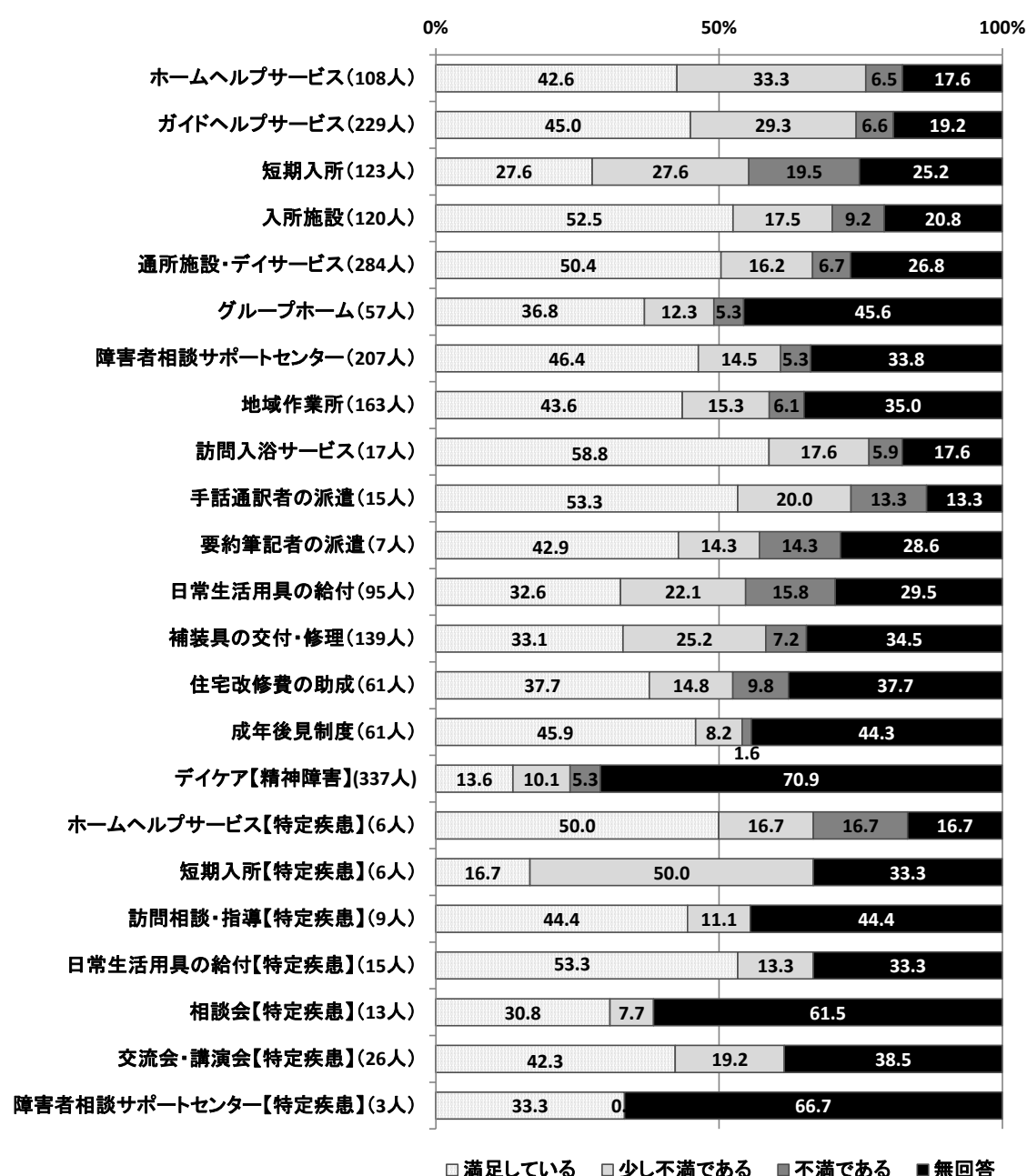
23のサービスのうち19のサービスにおいて、「満足している」が、「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合より高く、満足度の高いサービスが多いことがわかります。

中でも入所施設、通所施設・デイサービス、障害者相談サポートセンター、地域作業所、訪問入浴サービス、成年後見制度では「満足している」が、「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合より20ポイント以上高くなっています。

短期入所、日常生活用具の給付、デイケアでは、「満足している」より「少し不満である」と「不満である」を合わせた割合の方が高く、満足度が低くなっています。

なお、特定疾患においては母数が少ない中でも、短期入所【特定疾患】以外では満足度の高い傾向があります。

福祉サービスの満足度



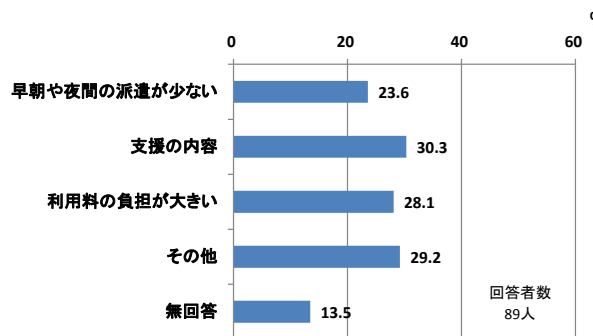
③不満である理由(「不満である」または「少し不満である」方)

福祉サービスの利用における主な不満の内容を見ると、短期入所では「緊急時に使いにくい」、グループホームでは「利用料の負担が大きい」、障害者相談サポートセンターでは「何を相談してよいかわからない」、訪問入浴サービスでは「利用回数」、手話通訳者の派遣では「趣味や余暇に使えない」、要約筆記者の派遣では「緊急時に利用できない」、日常生活用具の給付と補装具の交付・修理では「利用料の負担が大きい」や「自由に買い替えられない」、住宅改修費の助成では「利用料の負担が大きい」、成年後見制度では「費用が高い」、デイケア【精神障害】では「自分に合うプログラムがない」ことがあげられています。

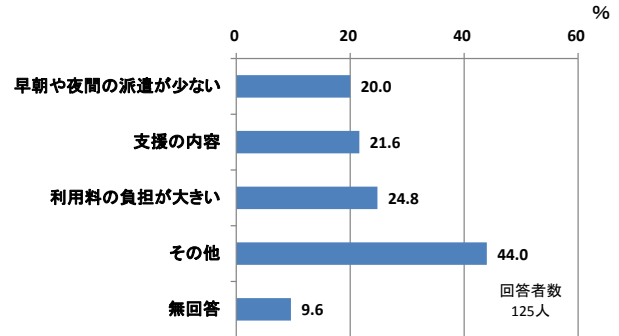
不満である理由(「不満である」または「少し不満である」方)

身体・知的・精神

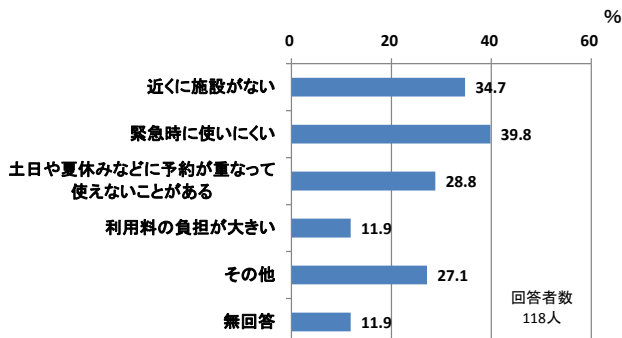
① ホームヘルプサービス



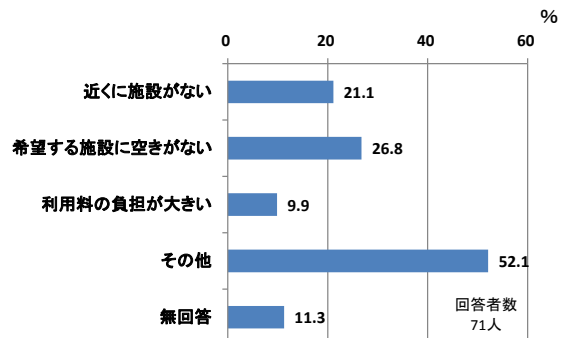
② ガイドヘルプサービス



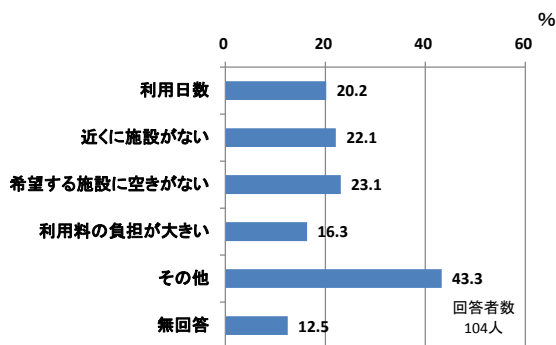
② 短期入所



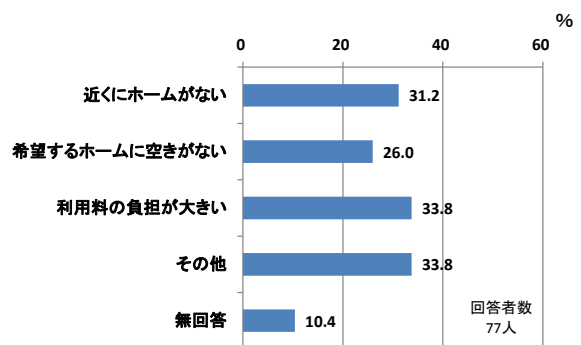
④ 入所施設



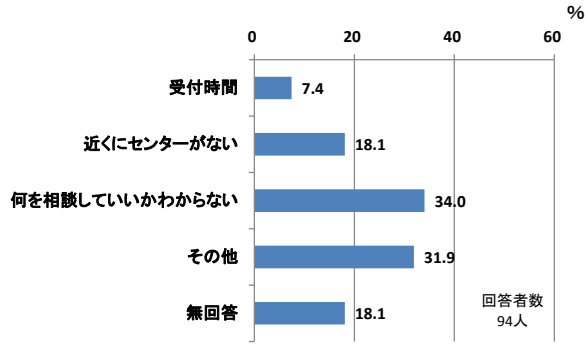
⑤ 通所施設・デイサービス



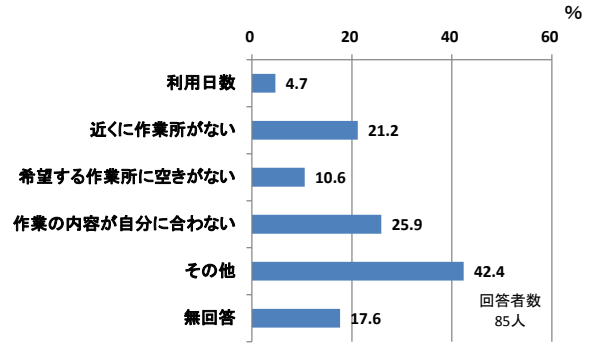
⑥ グループホーム



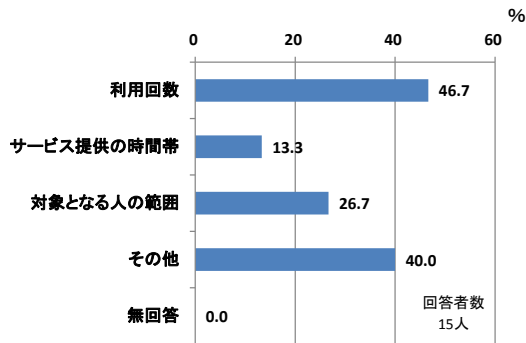
⑦障害者相談サポートセンター



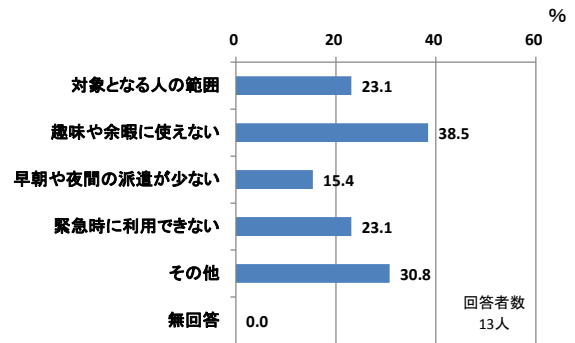
⑧地域作業所



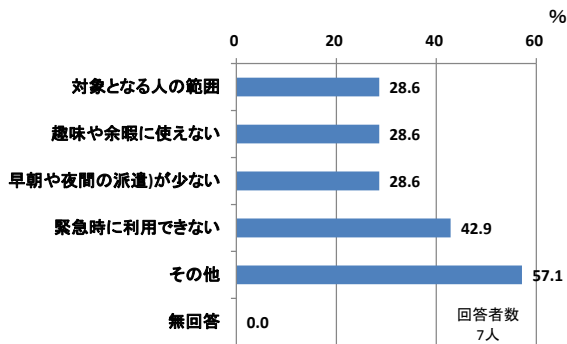
⑨訪問入浴サービス



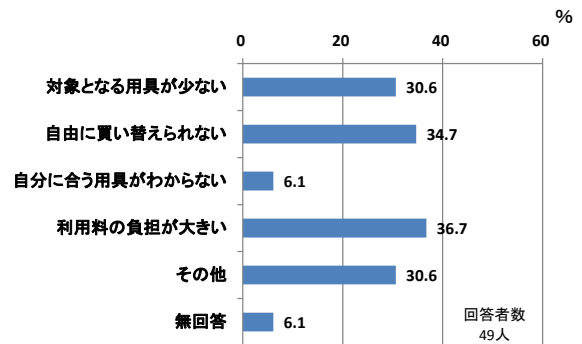
⑩手話通訳者の派遣



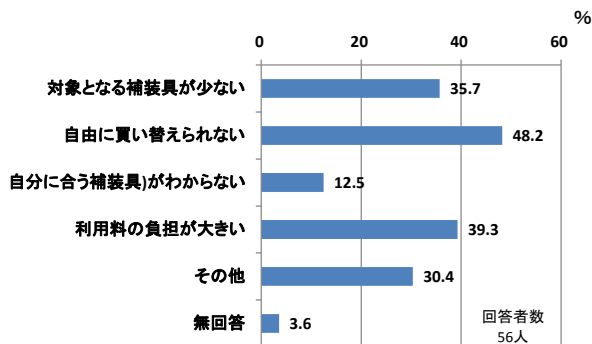
⑪要約筆記者の派遣



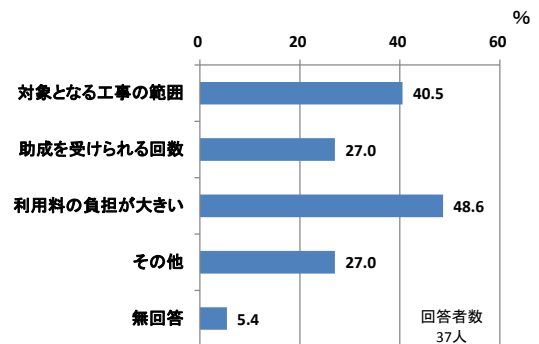
⑫日常生活用具の給付



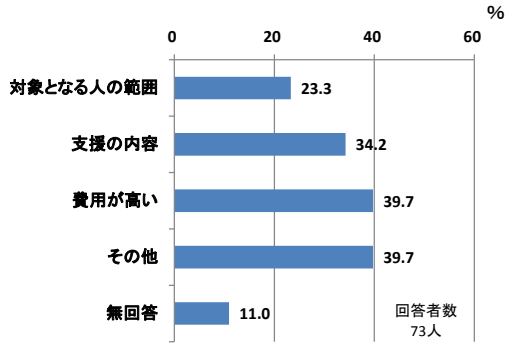
⑬補装具の交付・修理



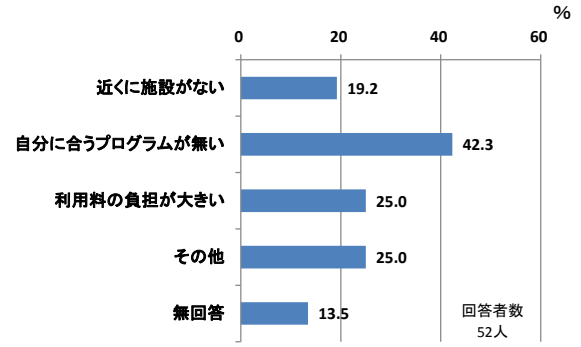
⑭住宅改修費の助成



⑮ 成年後見制度

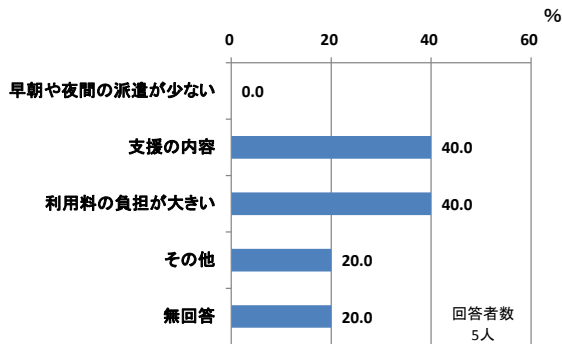


⑯ デイケア【精神障害】

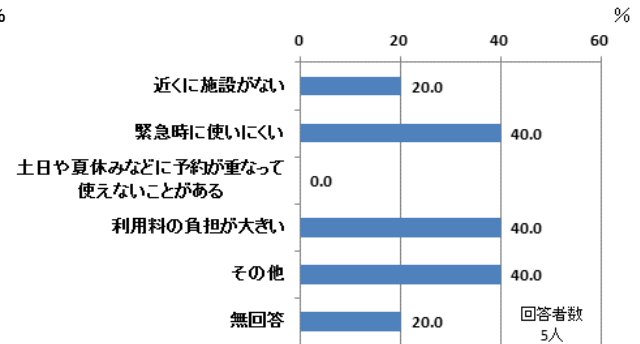


難病

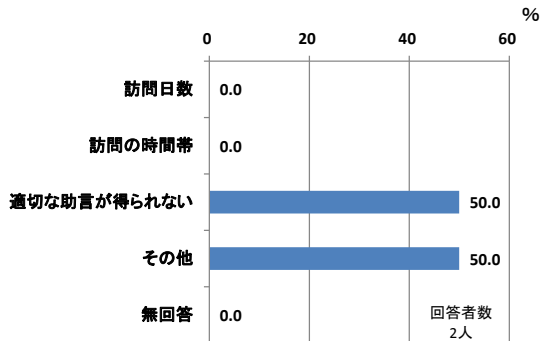
① ホームヘルプサービス



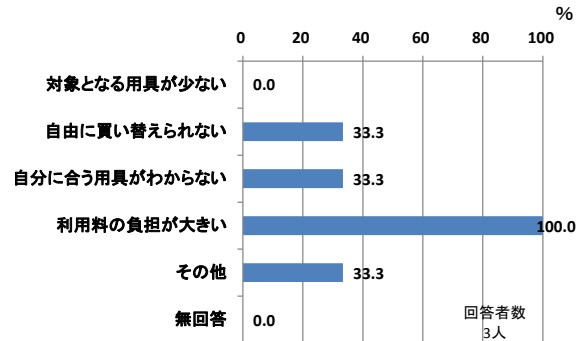
② 短期入所



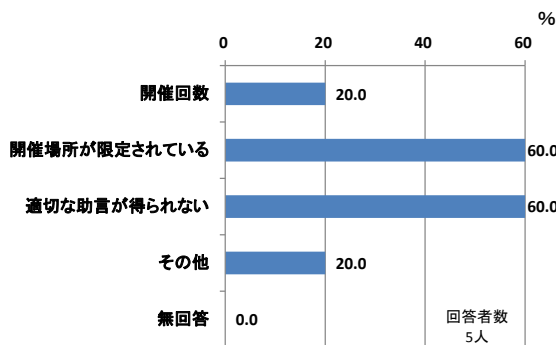
② 訪問相談・指導



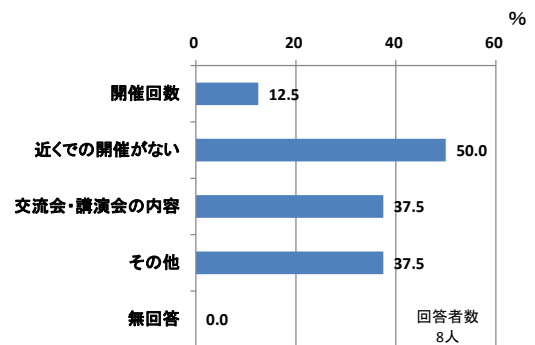
④ 日常生活用具の給付



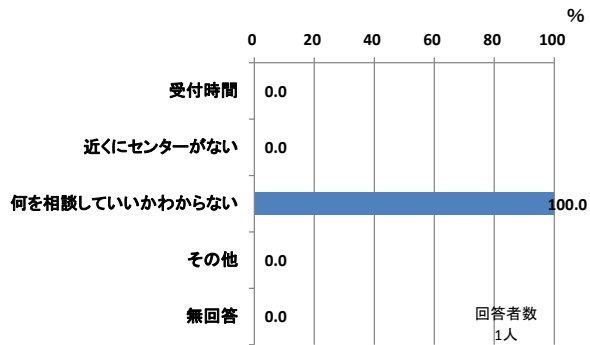
⑤ 相談会



⑥ 交流会・講演会



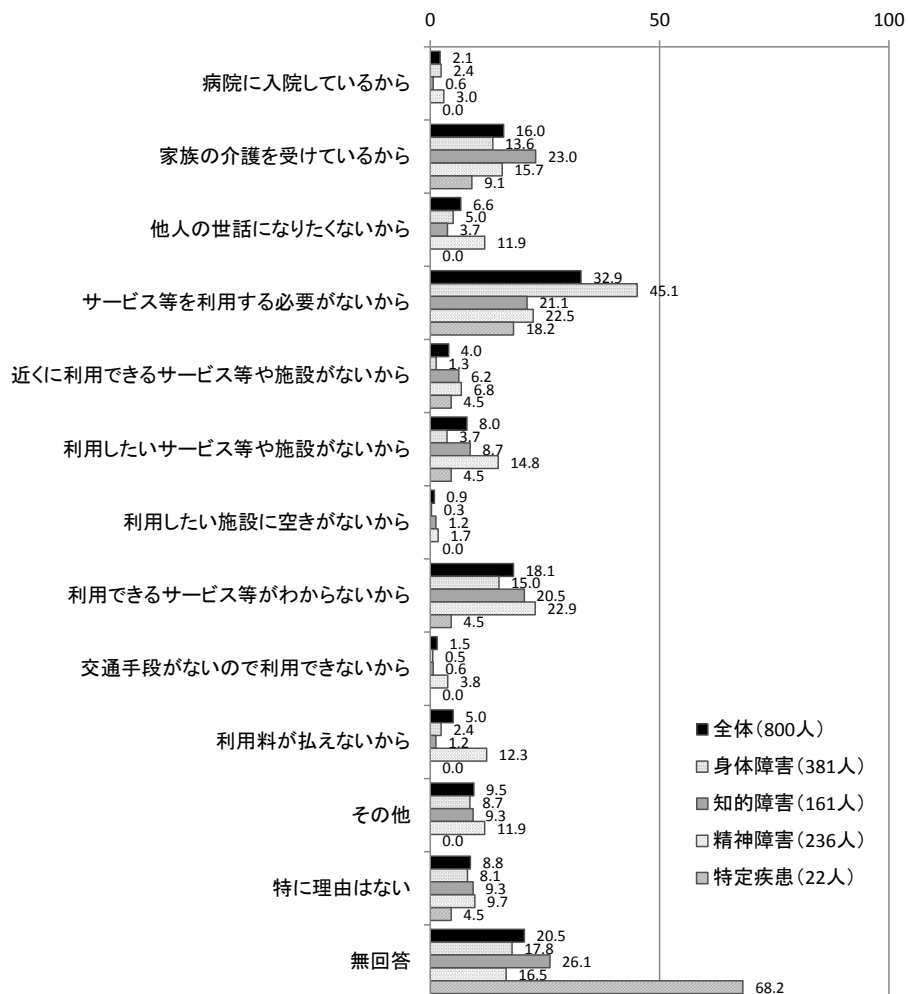
⑦障害者相談サポートセンター



(2) 福祉サービスを現在、全く利用していない方におたずねします。
サービスを利用していないのは、どのような理由からですか。(〇はいくつでも)

福祉サービスを利用していない理由で最も多いのは、「サービス等を利用する必要がないから」(32.9%)です。特に身体障害では「サービス等を利用する必要がないから」とする人が45.1%を占めています。また、知的障害では「家族の介護を受けているから」(23.0%)が最も多く、精神障害では「利用できるサービス等がわからないから」(22.9%)が「サービス等を利用する必要がないから」(22.5%)と同等に多くなっています。

サービスを利用していない理由、障害別(複数回答)



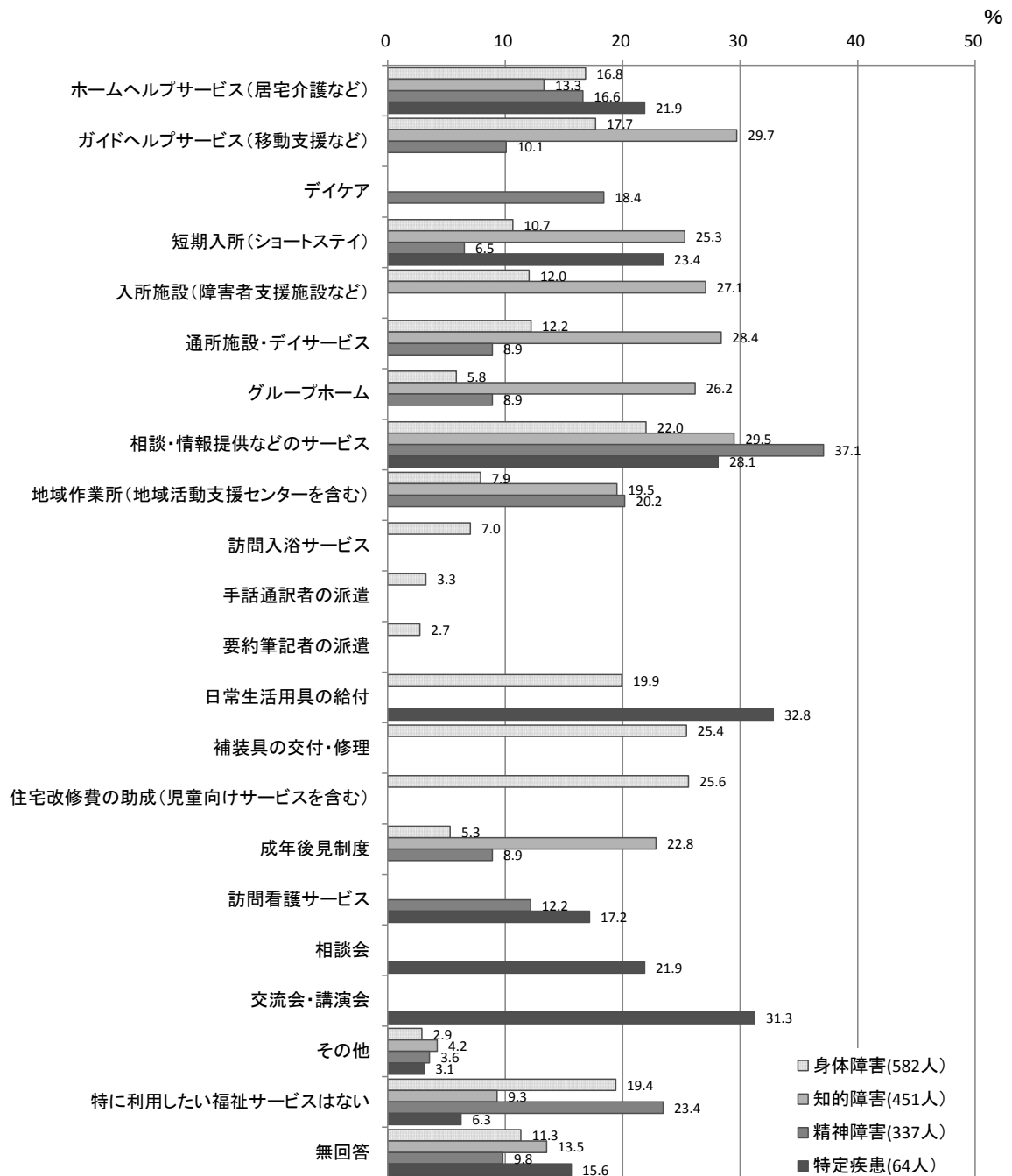
(3) あなたは、今後、どのような福祉サービス等を利用したいですか。(〇はいくつでも)

今後利用したい福祉サービス等は、身体障害では「補装具の交付・修理」(25.4%)と「住宅改修費の助成」(25.6%)、知的障害では「ガイドヘルプサービス」(29.7%)、精神障害では「相談・情報提供などのサービス」(37.1%)、特定疾患では「日常生活用具の給付」(32.8%)の割合が最も高くなっています。

「相談・情報提供などのサービス」は、身体障害(22.0%)、知的障害(29.5%)、特定疾患(28.1%)でも多くあげられています。

また、知的障害では「通所施設・デイサービス」(28.4%)、「入所施設」(27.1%)、「グループホーム」(26.2%)、「短期入所」(25.3%)、「成年後見制度」(22.8%)の割合も高く、多くのサービスへの利用意向が見られます。

今後利用したいサービス、障害別(複数回答)

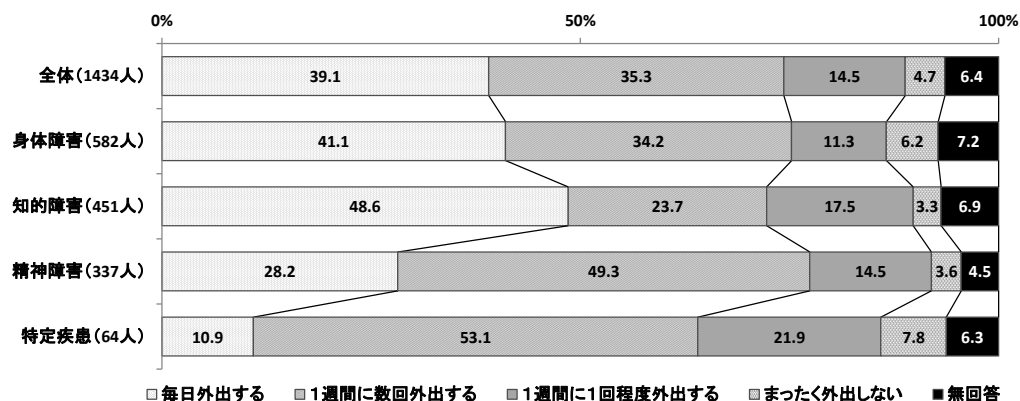


3 日中活動について

(1) あなたは、1週間にどの程度外出しますか。(○は1つ)

「毎日外出する」が39.1%、「1週間に数回外出する」が35.3%となっています。
 知的障害では「毎日外出する」(48.6%)とする人が多く、精神障害(49.3%)と特定疾患(53.1%)では「1週間に数回外出する」とする人が多くなっています。

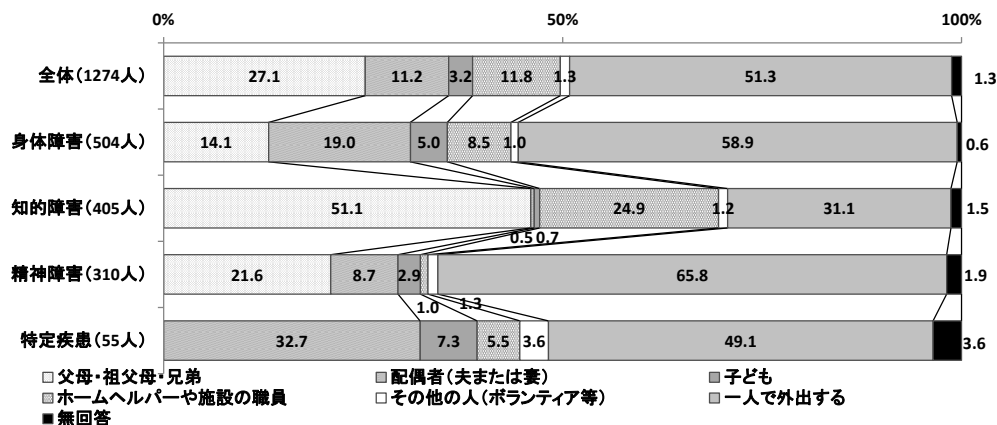
外出の頻度、障害別



(2) あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。(○は1つ)

最も多いのは、「一人で外出する」(51.3%)となっています。障害別に見ると、精神障害の65.8%、身体障害の58.9%、特定疾患の49.1%が「一人で外出する」としていますが、知的障害では31.1%と少なくなっています。知的障害の51.1%が「父母・祖父母・兄弟」としており、半数が家族と一緒に外出していることがわかります。

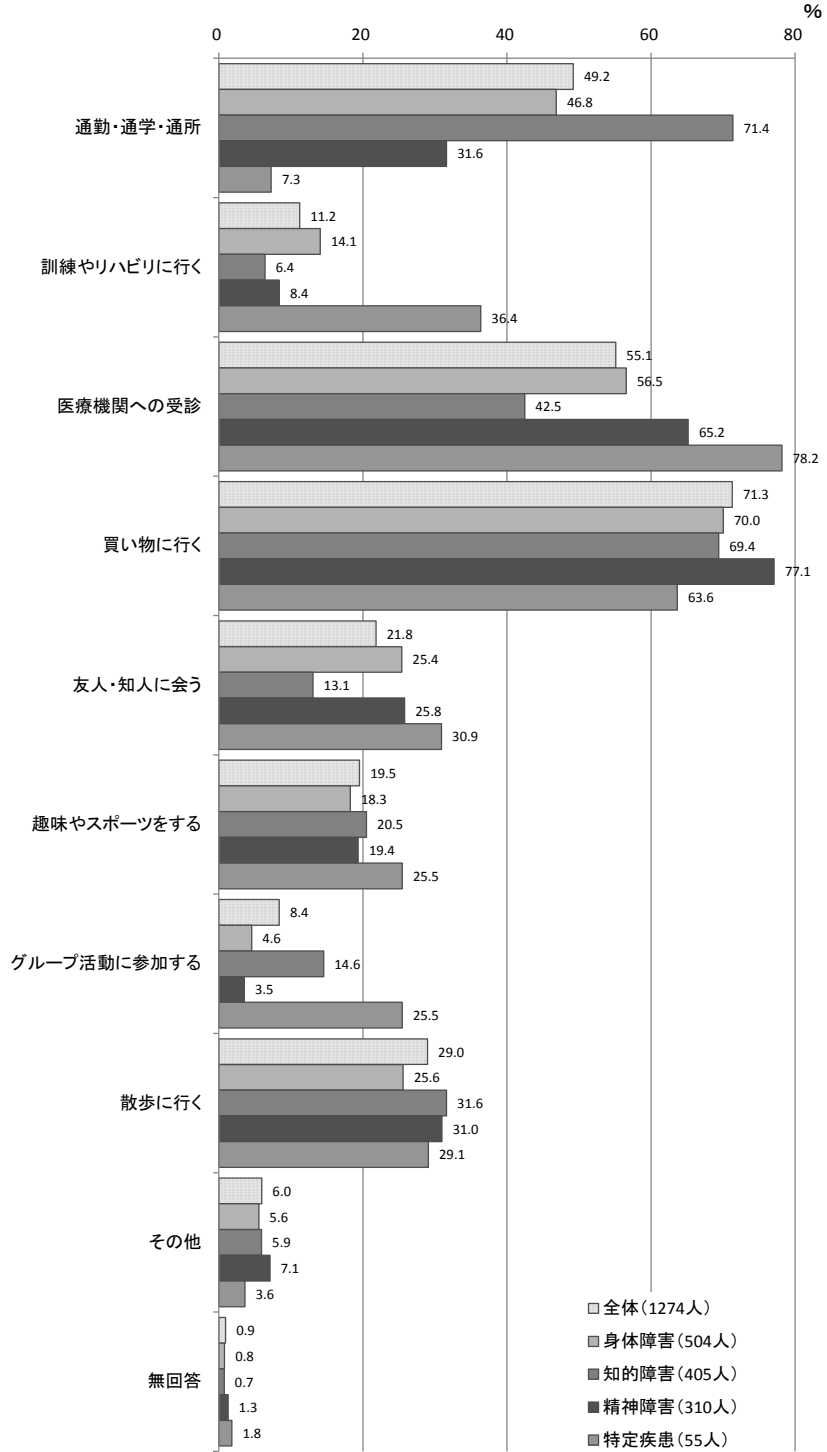
外出時の同伴者、障害別



(3) あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。(〇はいくつでも)

「買い物に行く」が71.3%で最も多く、次いで「医療機関への受診」が55.1%です。また、知的障害では「通勤・通学・通所」が最も多く、71.4%となっています。

外出の目的、障害別(複数回答)

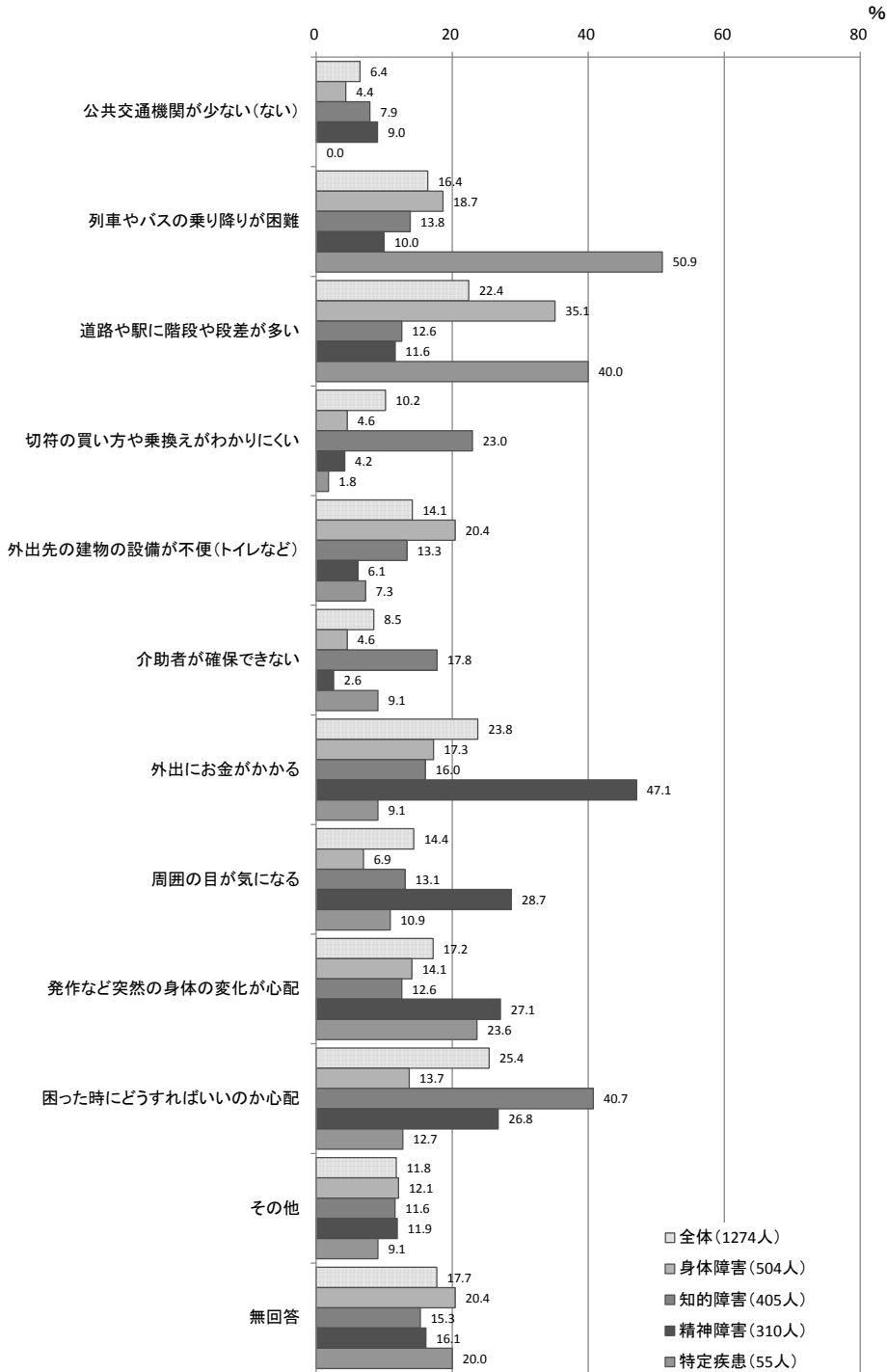


(4) あなたが外出する時に困ることは何ですか。(〇はいくつでも)

困りごとは多方面に渡り、「困った時にどうすればいいのか心配」(25.4%)、「外出にお金がかかる」(23.8%)、「道路や駅に階段や段差が多い」(22.4%)の順に多くなっています。

身体障害では「道路や駅に階段や段差が多い」(35.1%)、知的障害では「困った時にどうすればいいのか心配」(40.7%)、精神障害では「外出にお金がかかる」(47.1%)、特定疾患では「列車やバスの乗り降りが困難」(50.9%)がそれぞれ最も多くあげられています。

外出時の困りごと、障害別(複数回答)

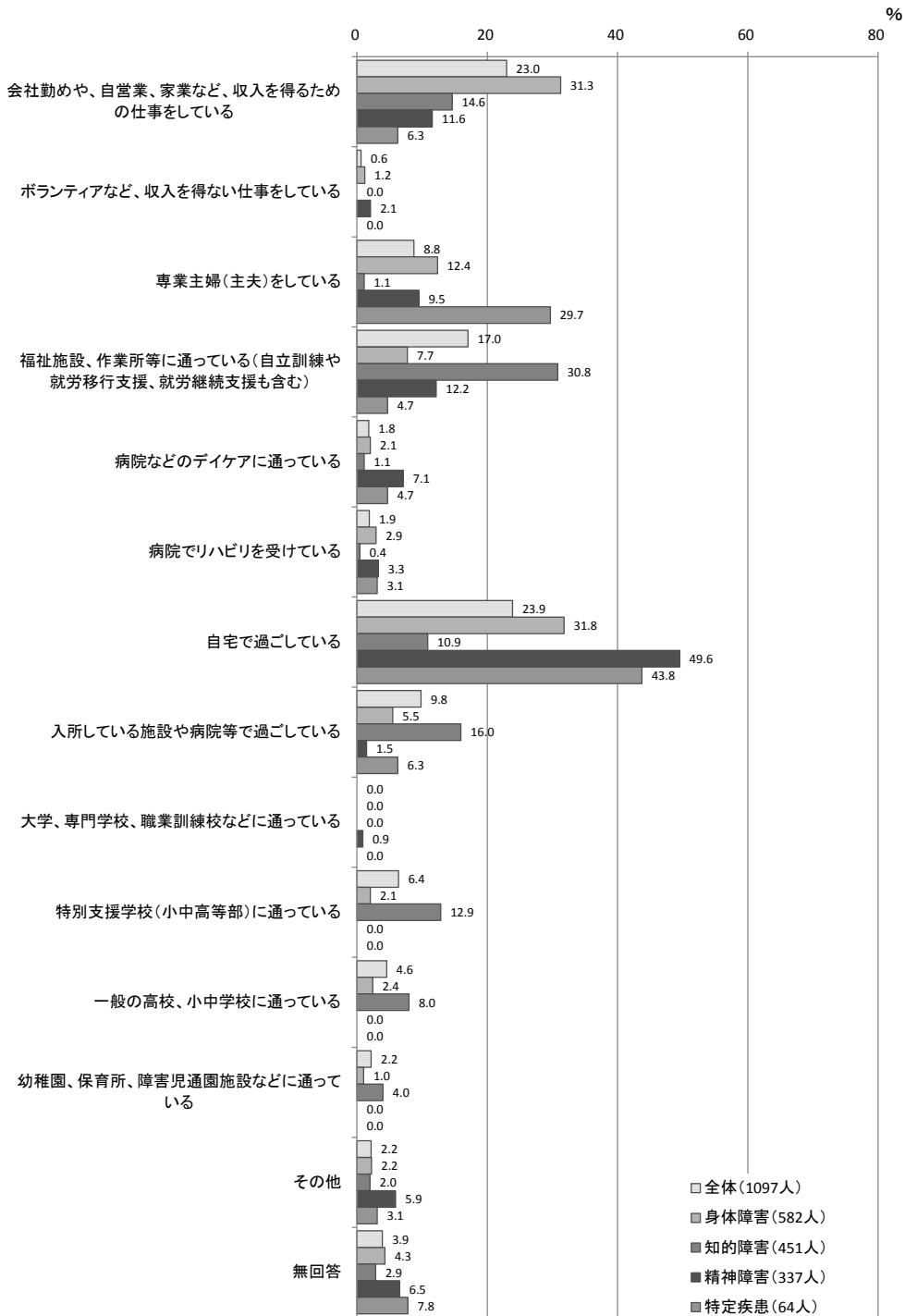


(5) あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。(○は1つ)

「自宅で過ごしている」(23.9%)と「会社勤めや、自営業、家業など、収入を得るための仕事をしている」(23.0%)が最も多くあげられています。

知的障害では「福祉施設、作業所等に通っている」(30.8%)が最も多く、身体障害(31.8%)、精神障害(49.6%)、特定疾患(43.8%)では「自宅で過ごしている」が最も多くなっています。

日中の過ごし方、障害別



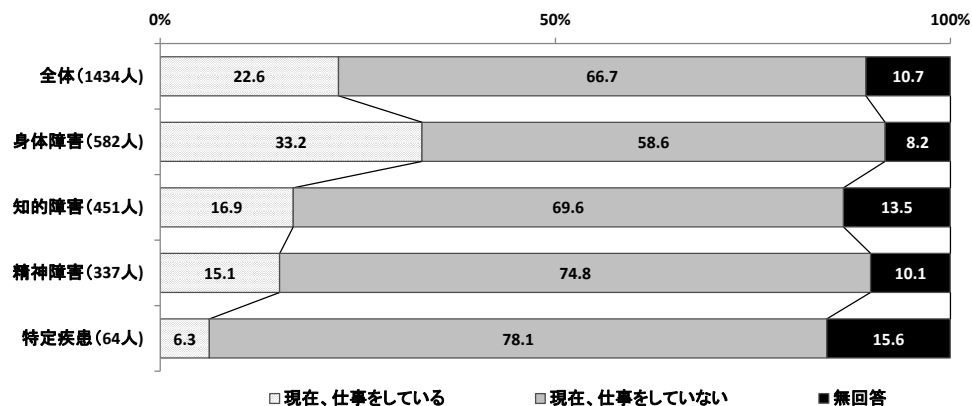
4. 仕事について

(1) あなたは、現在、仕事をしていますか。(○は1つ)

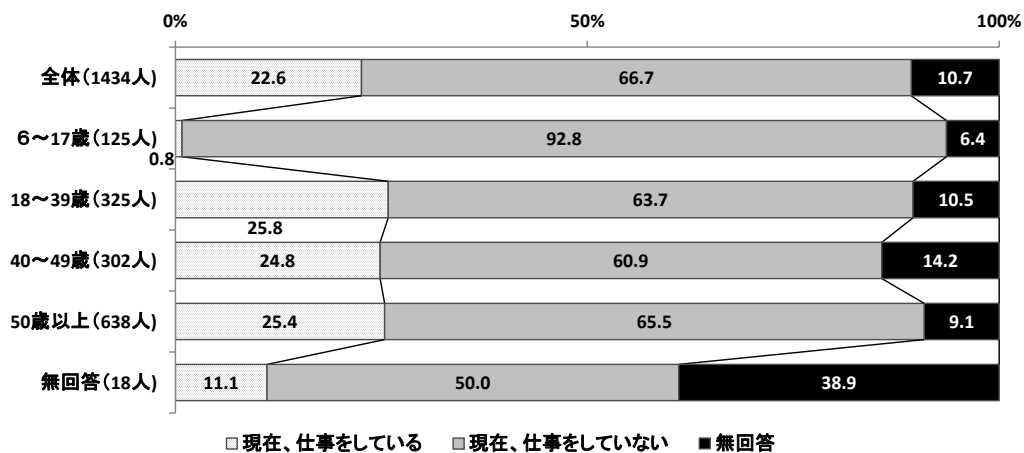
身体障害では 33.2%、知的障害では 16.9%、精神障害では 15.1%、特定疾患では 6.3% の人が現在仕事をしています。

仕事をしている人を年齢別に見ると、18～39歳では 25.8%、40～49歳では 24.8%、50歳以上では 25.4%となっており、18歳以降、年齢層による差は見られませんでした。

現在仕事をしているか、障害別



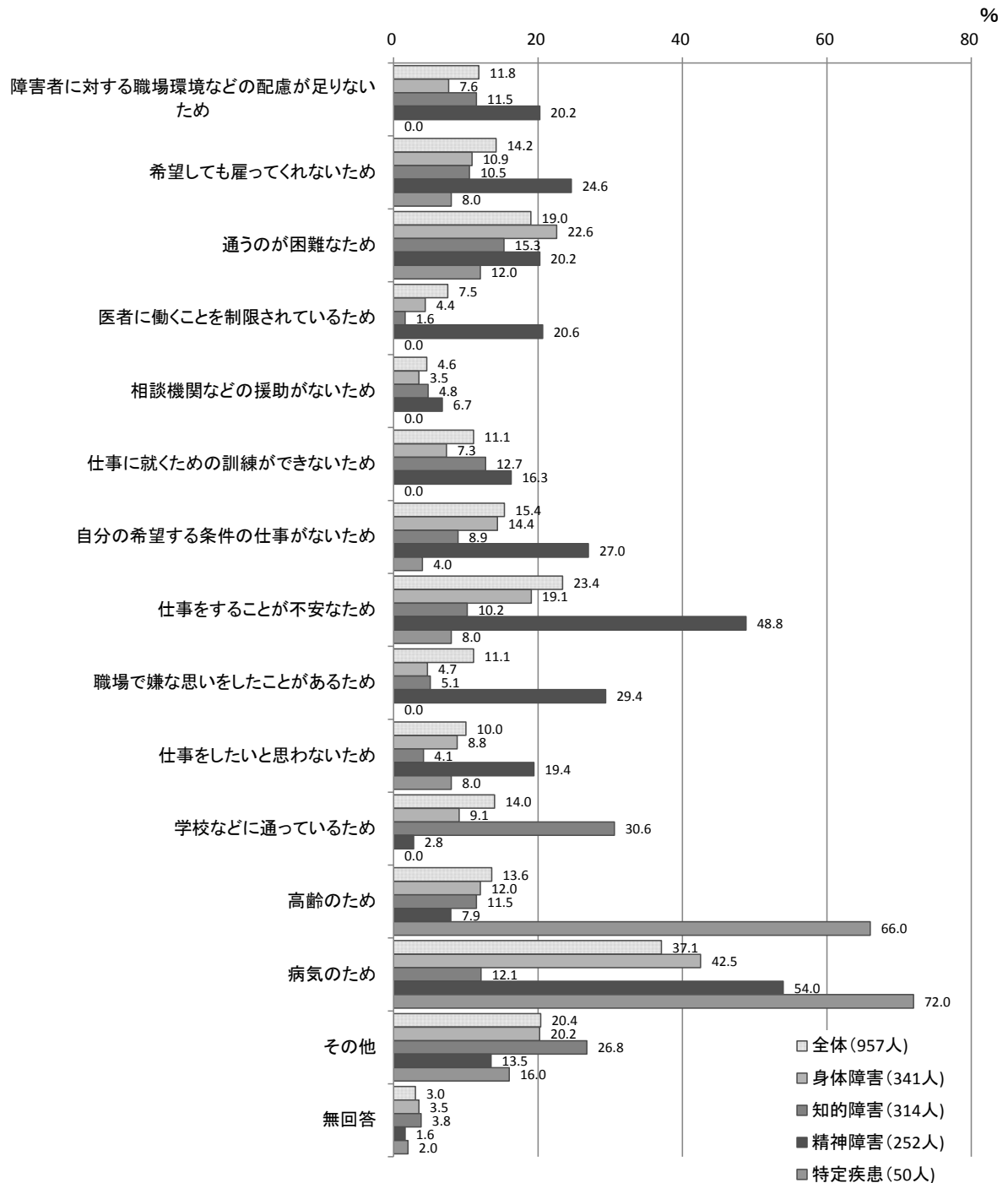
現在仕事をしているか、年齢別



(2)「現在、仕事をしていない」に○印をつけた方におたずねします。
 仕事をしていない事情は何ですか。(○はいくつでも)

仕事をしていない理由で最も多いのは全体(37.1%)、身体障害(42.5%)、精神障害(54.0%)、特定疾患(72.0%)では「病気のため」です。知的障害では「通うのが困難なため」(15.3%)が最も多くなっています。また、精神障害では「仕事をするのが不安なため」(48.8%)、「職場で嫌な思いをしたことがあるため」(29.4%)という理由も多くあげられています。

仕事をしていない事情、障害別(仕事をしていない人)(複数回答)

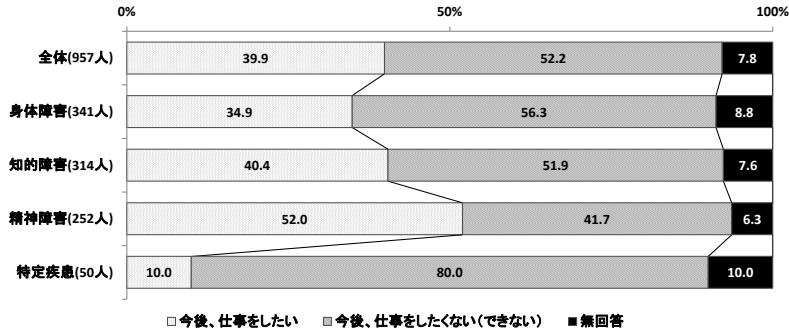


(3) あなたは、今後、仕事をしたいですか。(現在仕事をしていない方) (○は1つ)
 (児童の方は、学校卒業後の生活を想定して、お答えください。)

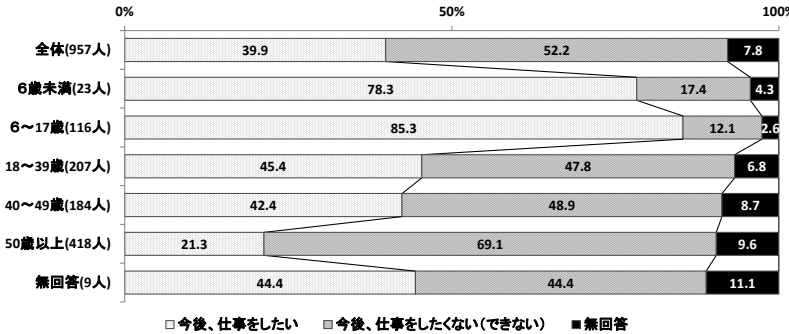
現在仕事をしていない方のうち 39.9%が「今後、仕事をしたい」としています。特に精神障害では多く、52.0%が「今後、仕事をしたい」としています。

年齢別に見ると、「今後、仕事をしたい」とする人は 18～39 歳で 45.4%、40～49 歳で 42.4%、50 歳以上で 21.3%となっており、年齢が上がるにつれて少なくなっています。

今後仕事をしたいか、障害別(現在仕事をしていない方)



今後仕事をしたいか、年齢別(現在仕事をしていない方)

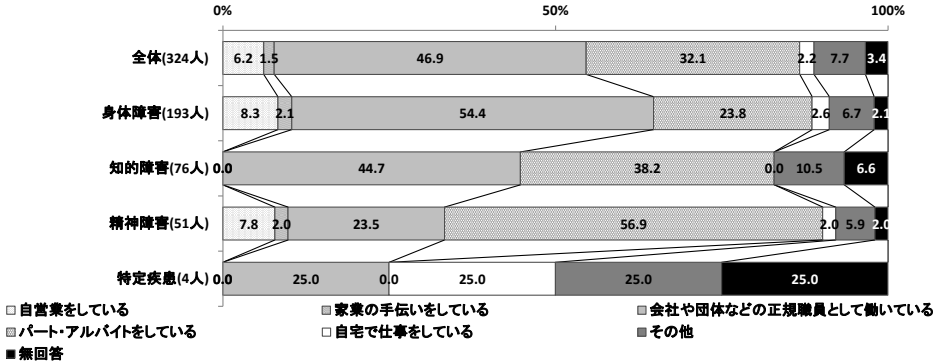


(4) 「現在、仕事をしている」に○印をつけた方におたずねします。あなたは、どのような仕事をしていますか。(○は1つ)

現在の仕事の内容を見ると、「会社や団体などの正規職員として働いている」(46.9%)と「パート・アルバイトをしている」(32.1%)が最も多くなっています。

障害別に見ると、「会社や団体などの正規職員として働いている」が多いのは身体障害(54.4%)と知的障害(44.7%)で、精神障害では「パート・アルバイトをしている」(56.9%)が最も多くなっています。

現在の仕事の内容、障害別(現在仕事をしている方)

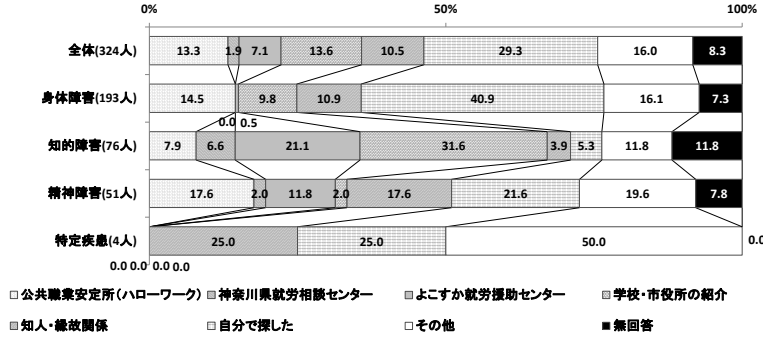


(5) あなたの今の仕事は、どのような方法で見つけましたか。(〇は1つ) (仕事をしている方)

仕事を見つけた方法は、「自分で探した」(29.3%)、「学校・市役所の紹介」(13.6%)、「公共職業安定所」(13.3%)の順に多くなっています。

身体障害(40.9%)と精神障害(21.6%)では「自分で探した」が多く、知的障害では「学校・市役所の紹介」(31.6%)が多くなっています。

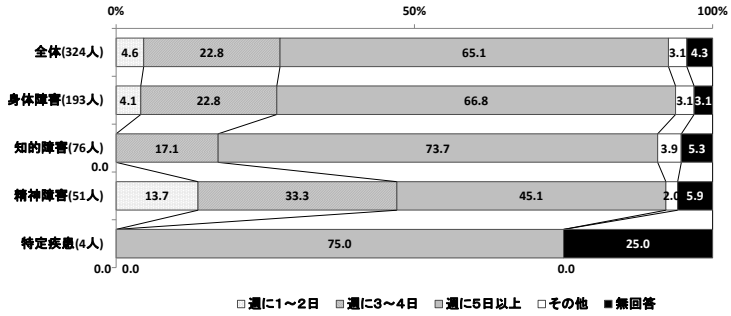
仕事を見つけた方法、障害別(仕事をしている方)



(6) あなたは、一週間にどれくらい働いていますか。(〇は1つ)

週の日数は、65.1%が「週に5日以上」、22.8%が「週に3~4日」となっています。精神障害では「週に5日以上」が45.1%、「週に3~4日」が33.3%で日数が少ない傾向が見られます。

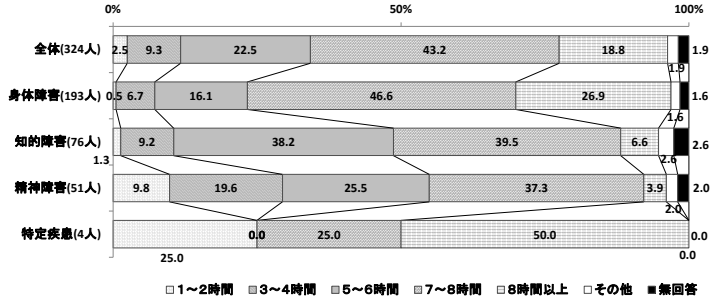
週の日数、障害別(仕事をしている方)



(7) あなたは、1日にどれくらい働いていますか。(〇は1つ) (仕事をしている方)

1日の労働時間は、「7~8時間」が43.2%、「5~6時間」が22.5%となっています。知的障害と精神障害では時間が少ない傾向があり、精神障害では「5~6時間」が25.5%、「3~4時間」が19.6%です。

1日の労働時間、障害別(仕事をしている方)

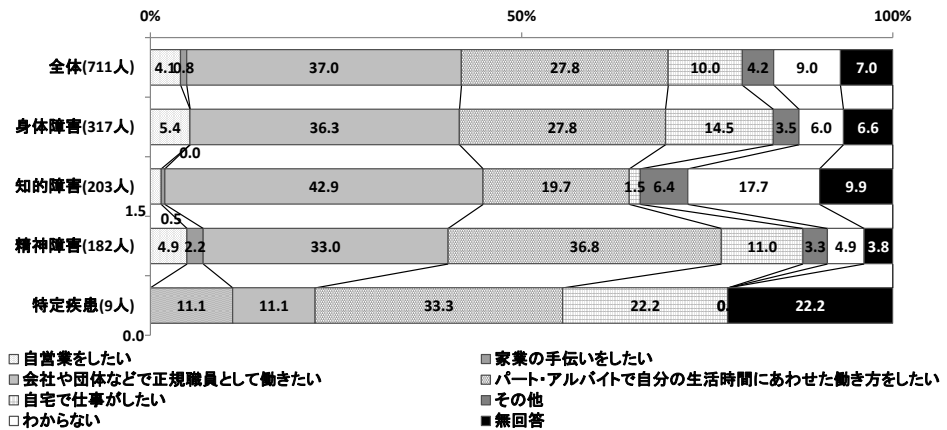


(8)「現在、仕事をしている」または、「今後、仕事をしたい」に、○印をつけた方におたずねします。あなたは、今後、どのような働き方をしたいですか。(○は1つ)

今後希望する働き方は、「会社や団体などで正規職員として働きたい」(37.0%)が最も多く、次いで「パート・アルバイトで自分の生活時間にあわせた働き方をしたい」(27.8%)、「自宅で仕事がしたい」(10.0%)の順となっています。

精神障害では「パート・アルバイトで自分の生活時間にあわせた働き方をしたい」(36.8%)が最も多くなっています。

今後希望する働き方、障害別（仕事をしている方、今後仕事をしたい方）

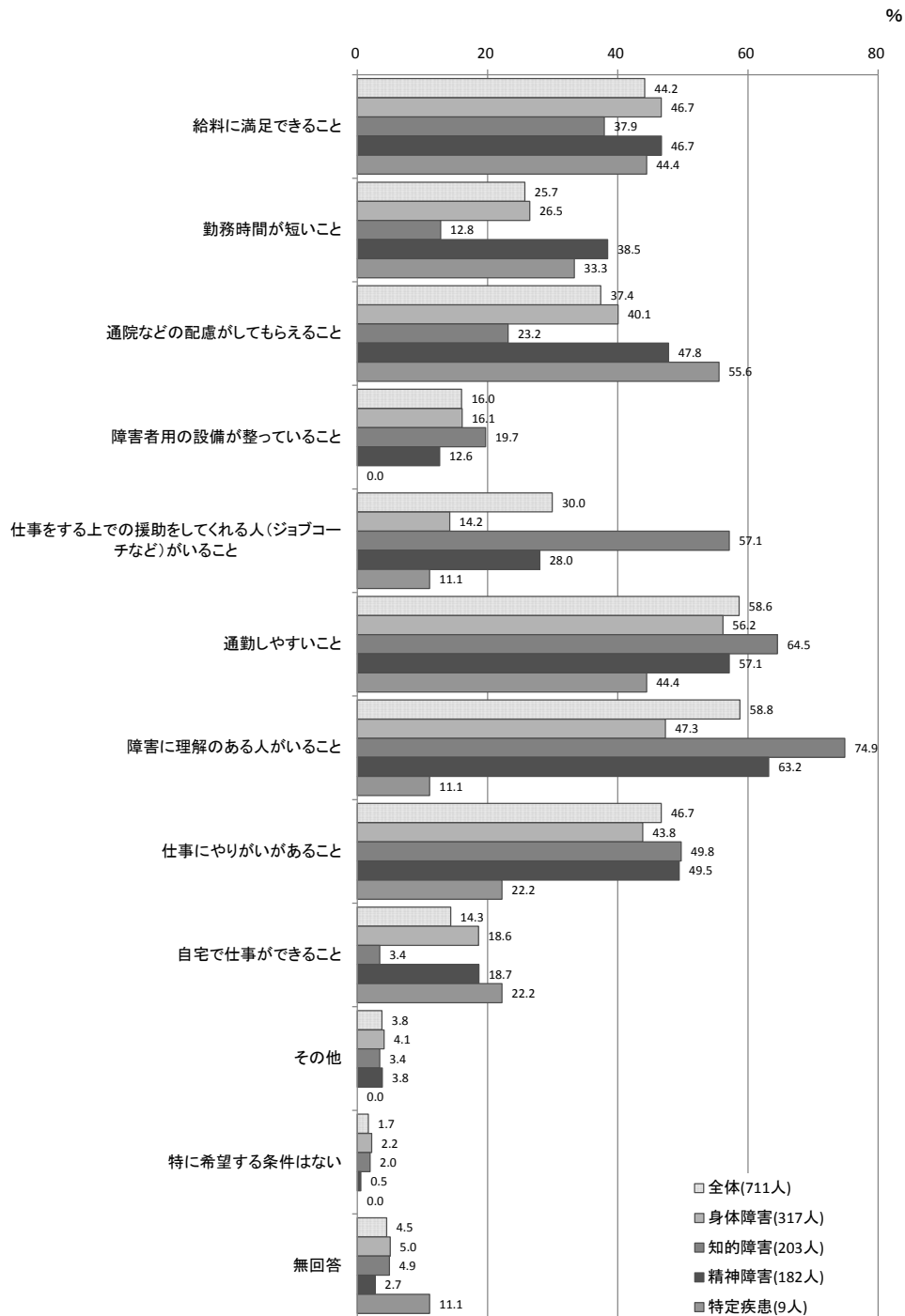


(9) あなたは、仕事を選ぶ条件として、どのようなことを希望しますか。(〇はいくつでも)(仕事をしている方、今後仕事をしたい方)

仕事をしている人や今後仕事をしたい人が仕事を選ぶ条件となるのは、多い順に「障害に理解のある人がいること」(58.8%)、「通勤しやすいこと」(58.6%)、「仕事にやりがいがあること」(46.7%)となっています。

身体障害では「通勤しやすいこと」(56.2%)、知的障害(74.9%)と精神障害(63.2%)では「障害に理解のある人がいること」が最も多くあげられています。

仕事を選ぶ上で希望する条件、障害別(仕事をしている方、今後仕事をしたい方)
(複数回答)

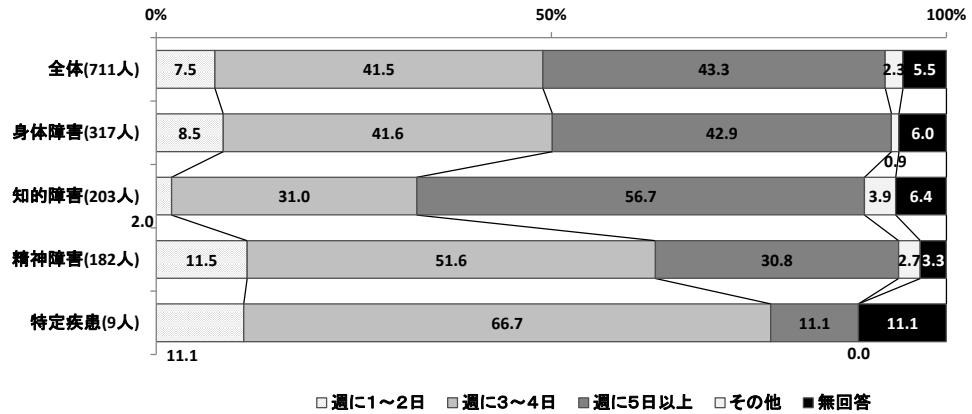


(10) あなたは、どれくらい働くことを希望していますか。(〇は1つ) (仕事をしている方、今後仕事をしたい方)
週の日数

希望する週当たりの日数は、「週に5日以上」(43.3%)、「週に3～4日」(41.5%)が多くなっています。

知的障害では「週に5日以上」が56.7%、精神障害では「週に3～4日」が51.6%です。

希望の日数、障害別(仕事をしている方、今後仕事をしたい方)

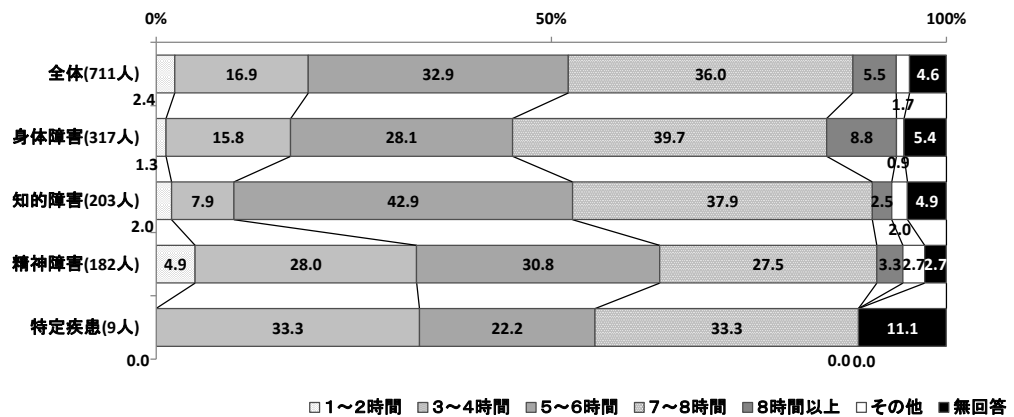


(11) あなたは、1日にどれくらい働くことを希望していますか。(〇は1つ) (仕事をしている方、今後仕事をしたい方)
1日の労働時間

希望する1日の労働時間は、「7～8時間」(36.0%)、「5～6時間」(32.9%)、「3～4時間」(16.9%)となっています。

精神障害では「5～6時間」(30.8%)、「3～4時間」(28.0%)となっており、短時間の労働を希望する人が多くなっています。

希望の労働時間、障害別(仕事をしている方、今後仕事をしたい方)

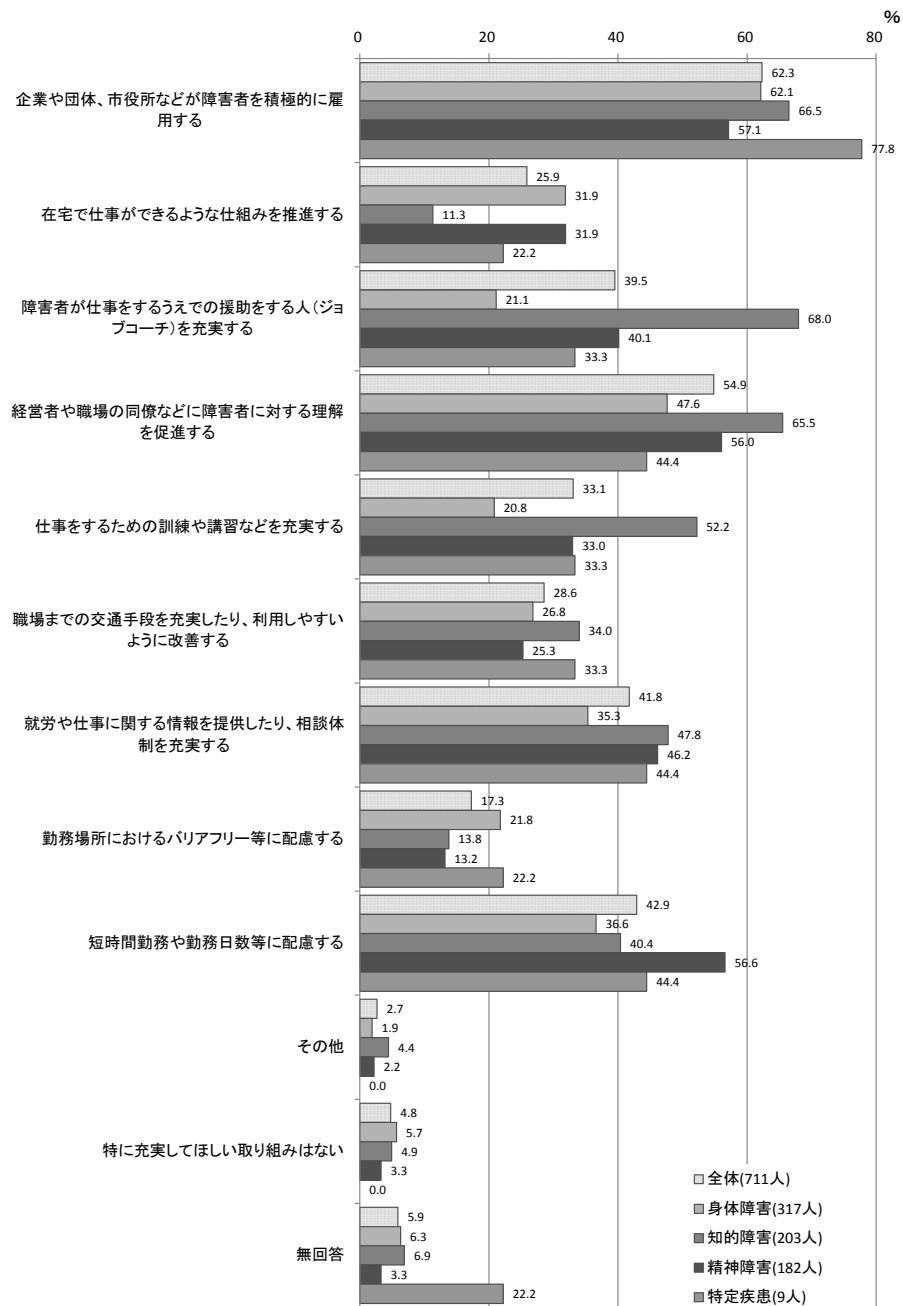


(12) 障害のある方が働いていくにあたって、取り組みを充実してほしいことは何ですか。
 (〇はいくつでも)
 (仕事をしている方、今後仕事をしたい方)

仕事をしている人や今後仕事をしたい人が、働く上で充実してほしいことは、多い順に「企業や団体、市役所などが障害者を積極的に雇用する」(62.3%)「経営者や職場の同僚などに障害者に対する理解を促進する」(54.9%)「短時間勤務や勤務日数等に配慮する」(42.9%)「就労や仕事に関する情報を提供したり、相談体制を充実する」(41.8%)となっています。

知的障害では「障害者が仕事をするうえでの援助をする人(ジョブコーチ)を充実する」が最も多く、68.0%を占めています。

働く上で充実してほしいこと、障害別(仕事をしている方、今後仕事をしたい方)
 (複数回答)



5. 医療ケアについて

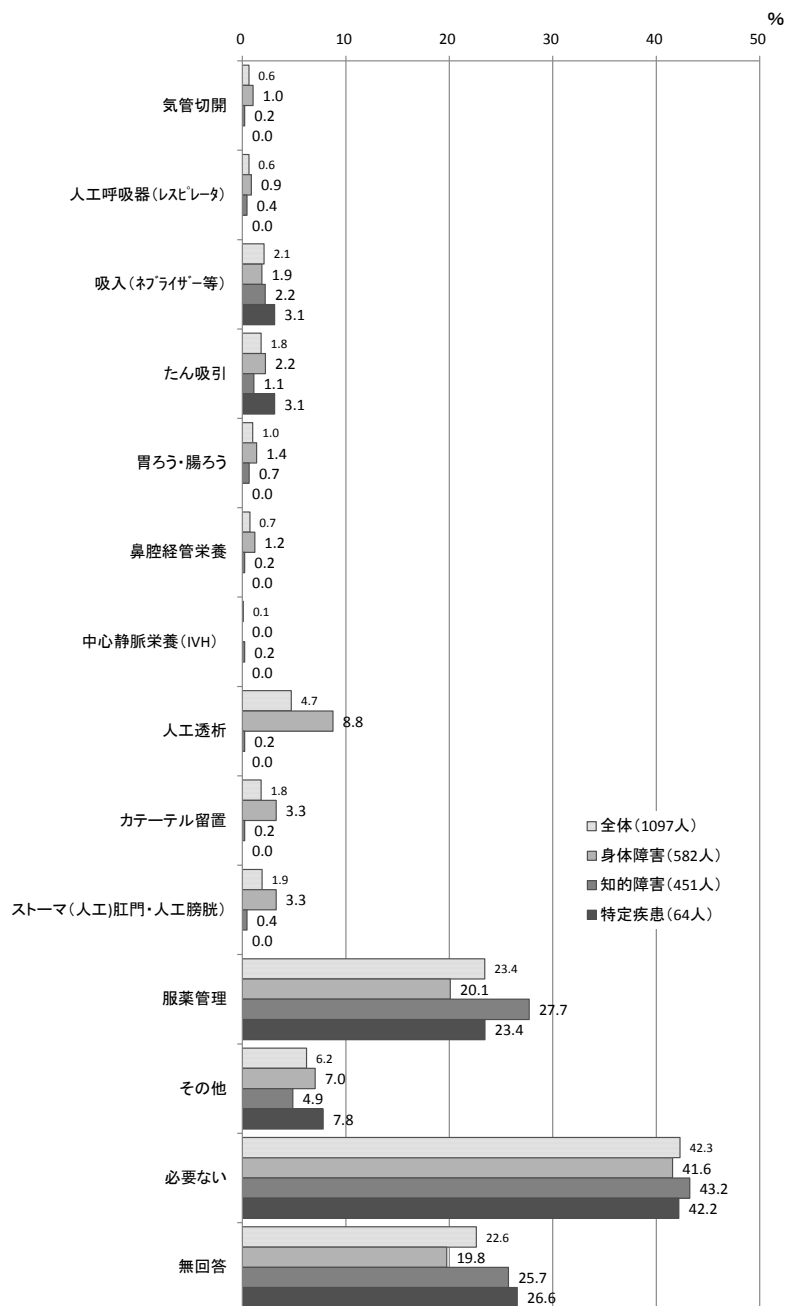
(1) あなたは、次のような医療ケアが必要ですか。(○はいくつでも)
(精神障害以外)

いずれの障害（精神障害以外）においても、ほぼ4割の人が医療ケアを「必要ない」としています。

「服薬管理」を必要としている人は23.4%で、知的障害では27.7%と、やや多くなっています。

また、該当者は少数ですが、身体障害では「人工透析」(8.8%)、「カテーテル留置」(3.3%)、「ストーマ（人工肛門・人工膀胱）」(3.3%)を必要としている人が他の医療ケアより多くなりました。

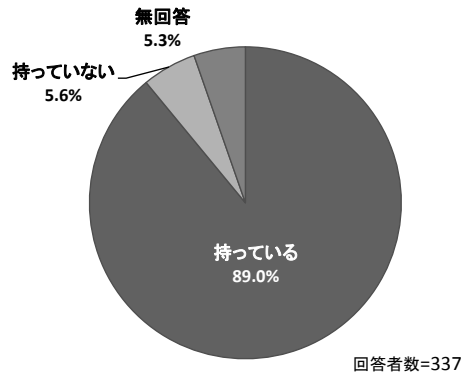
必要な医療ケア、精神障害以外の障害別（複数回答）



(2) あなたは、自立支援医療受給者証を持っていますか。(○は1つ)
(精神障害)

精神障害の人のうち、89.0%が自立支援医療受給者証を持っています。

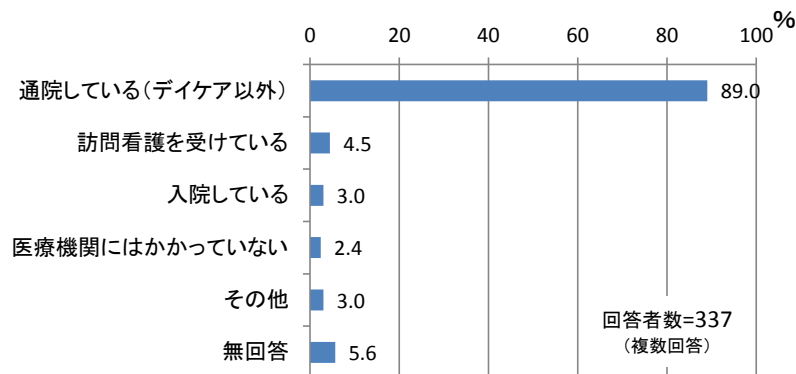
自立支援医療受給者証を持っているか、精神障害



(3) 現在の医療の状況はどうですか。(○はいくつでも)
(精神障害)

精神障害の人の医療の状況は、「通院している(デイケア以外)」が89.0%、「訪問看護を受けている」が4.5%、「入院している」が3.0%になっています。

医療の状況、精神障害(複数回答)

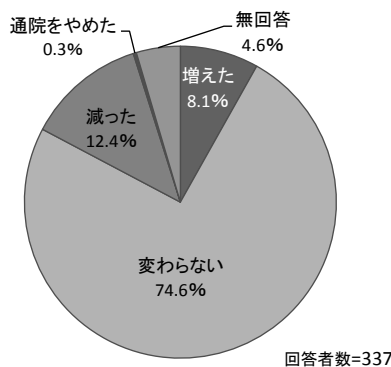


(4)「通院している(デイケア以外)」と「医療機関にはかかっていない」に○印をつけた方におたずねします。以前と比べて、通院回数はどうになりましたか。(○は1つ) 通院回数について「減った」もしくは「通院をやめた」事情は、何ですか。(○はいくつでも)(精神障害)

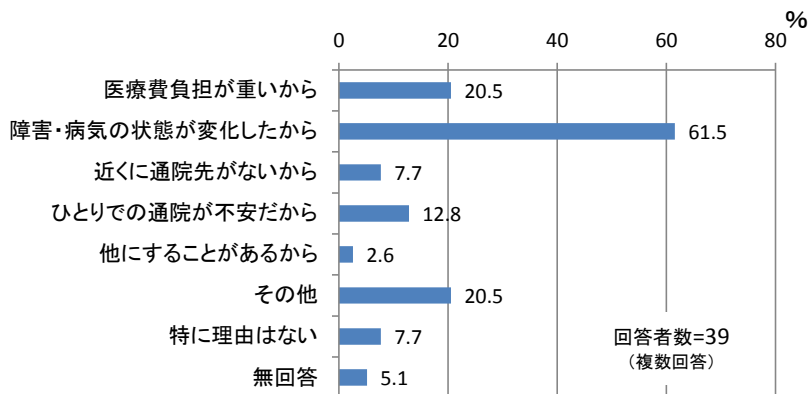
以前と比べて通院回数が「増えた」人は8.1%、「変わらない」人は74.6%、「減った」人は12.4%となっています。「通院をやめた」人は0.3%です。

また、通院回数の「減った」人、「通院をやめた」人の事情は、「障害・病気の状態が変化したから」とする人が61.5%です。「医療費負担が重いから」とする人も20.5%あります。

通院回数の変化、精神障害
(通院している方、医療機関にかかっていない方)



通院回数が「減った」もしくは「通院をやめた」事情(複数回答)

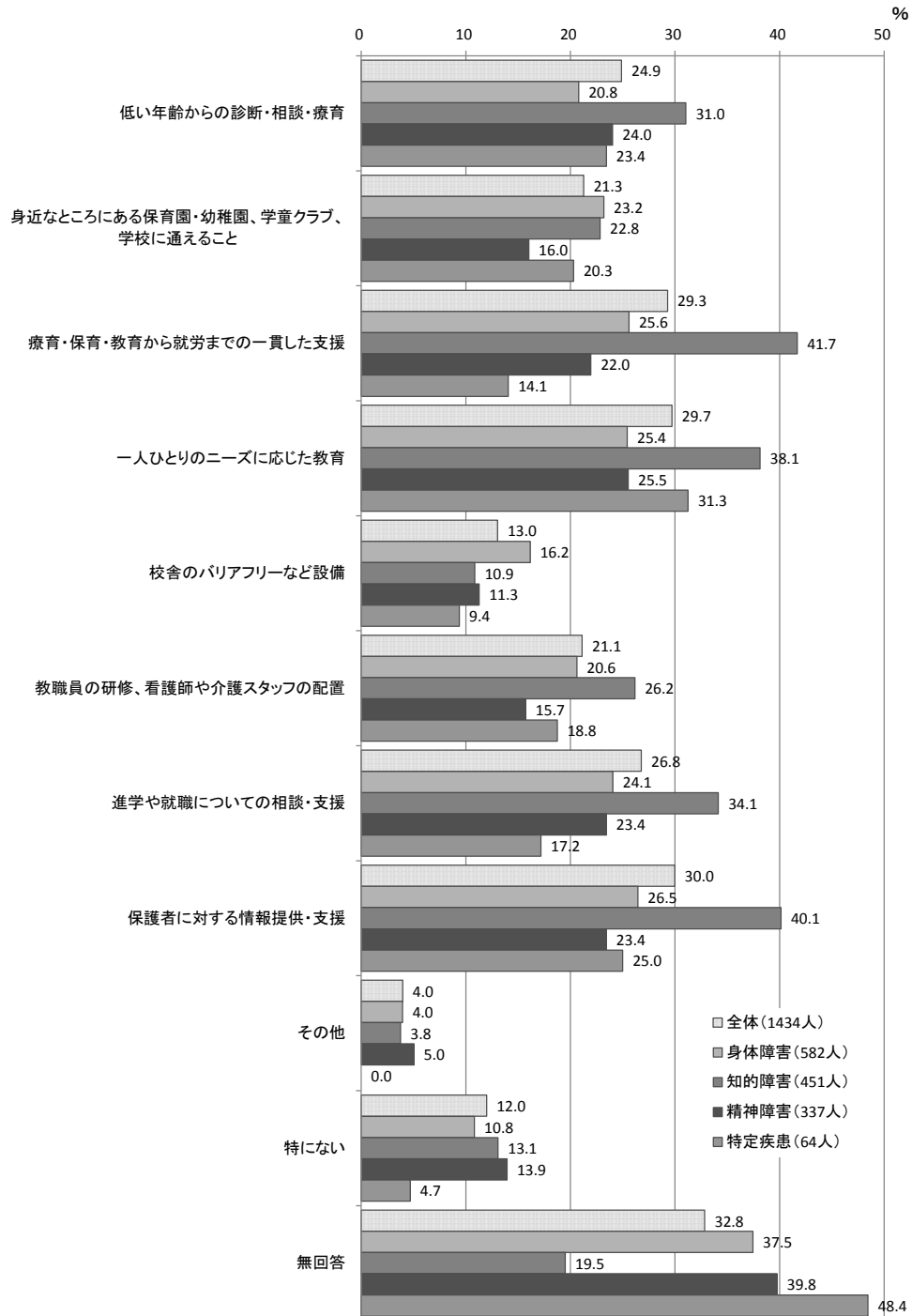


6. 教育・療育について

(1) 障害のある子どもの教育・療育について、何が不足していると思いますか。(〇はいくつでも)

障害のある子どもの教育・療育で不足していることとして、「保護者に対する情報提供・支援」(30.0%)、「一人ひとりのニーズに応じた教育」(29.7%)、「療育・保育・教育から就労までの一貫した支援」(29.3%)、「進学や就職についての相談・支援」(26.8%)など、様々な分野があげられています。

教育・療育に不足していること、障害別（複数回答）

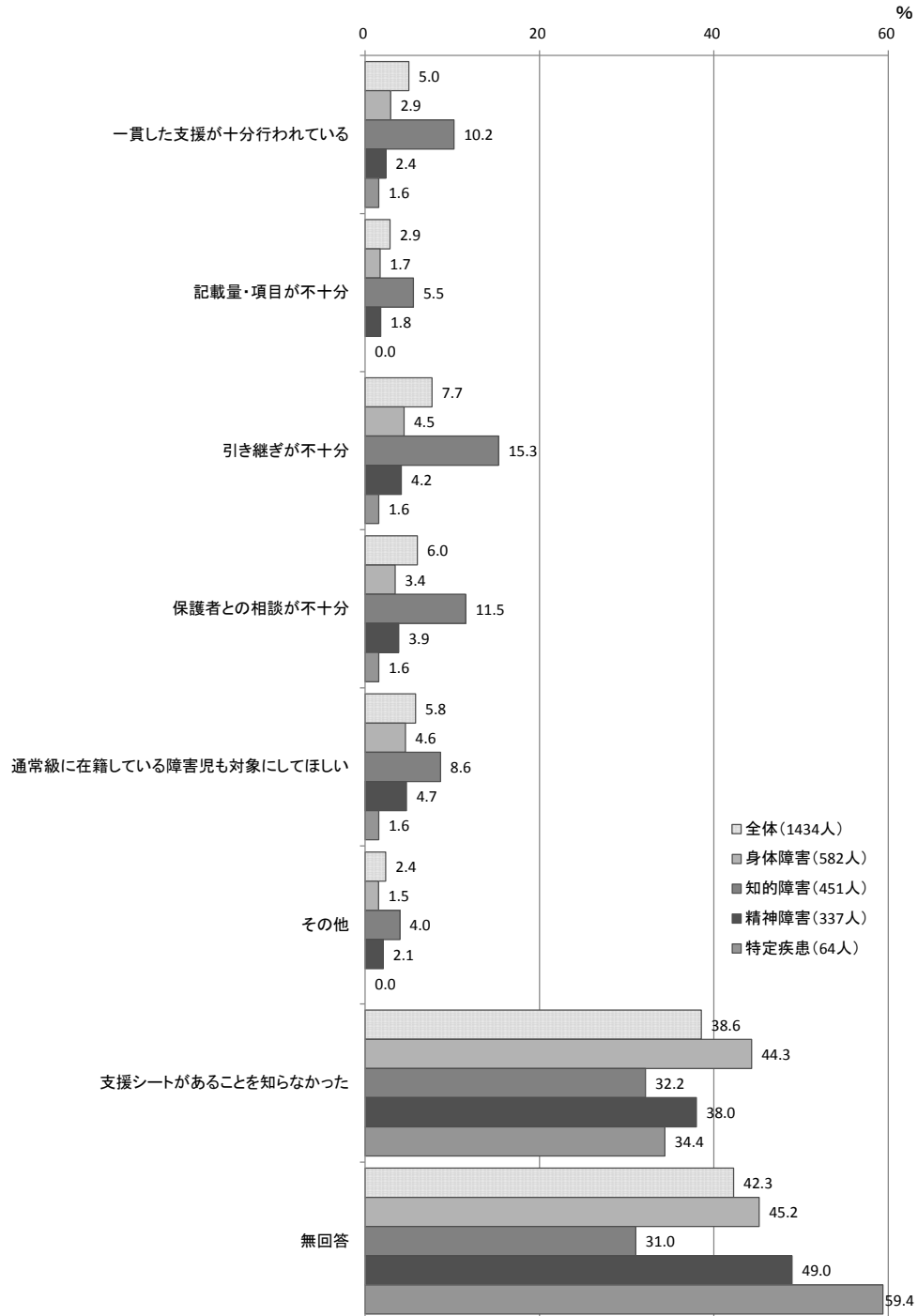


(2) 進学して通う場所が変わっても、障害のある子どもに対する一貫した支援を行うよう、「本人・保護者とともにつくる支援シート」を推進していますが、それについてどう思いますか。(〇はいくつでも)

「本人・保護者とともにつくる支援シート」については、「引き継ぎが不十分」(7.7%)、「保護者との相談が不十分」(6.0%)、「通常級に在籍している障害児も対象にしてほしい」(5.8%)などの意見があります。一方で、「一貫した支援が十分行われている」(5%)という評価もされています。

また、「支援シートがあることを知らなかった」とする人が38.6%います。

「本人・保護者とともにつくる支援シート」について、障害別（複数回答）

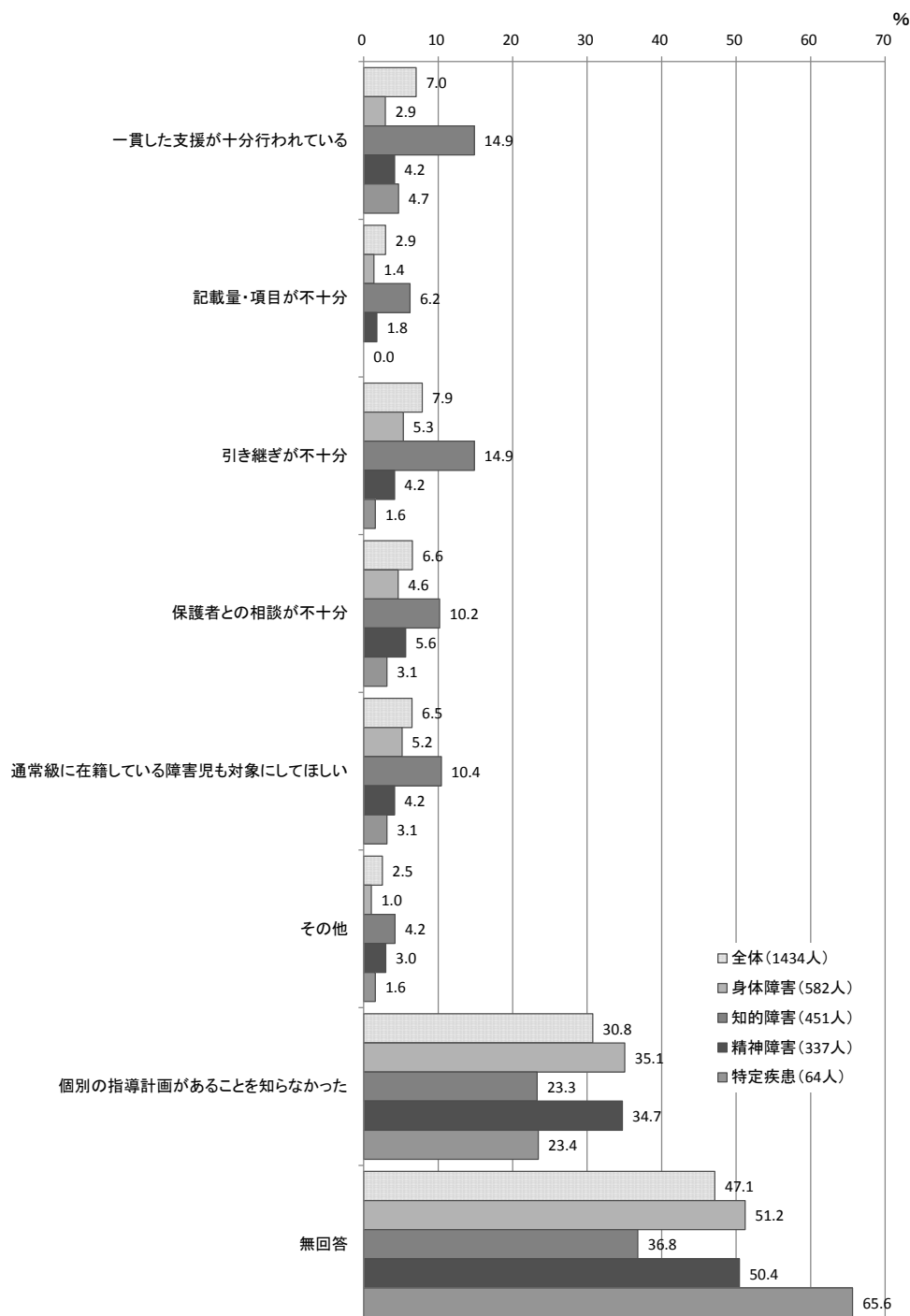


(3) 学年が上がり、担任の先生が変わっても、障害のある子どもの実態に応じたきめ細かな指導を一貫して行う「個別の指導計画」を毎年作成していますが、それについてどう思いますか。(〇はいくつでも)

「個別の指導計画」については、「引き継ぎが不十分」(7.9%)、「保護者との相談が不十分」(6.6%)、「通常級に在籍している障害児も対象にしてほしい」(6.5%)などの意見や、「一貫した支援が十分行われている」(7.0%)という評価があります。

一方で、「個別の指導計画があることを知らなかった」とする人が30.8%います。

「個別の指導計画」について、障害別(複数回答)

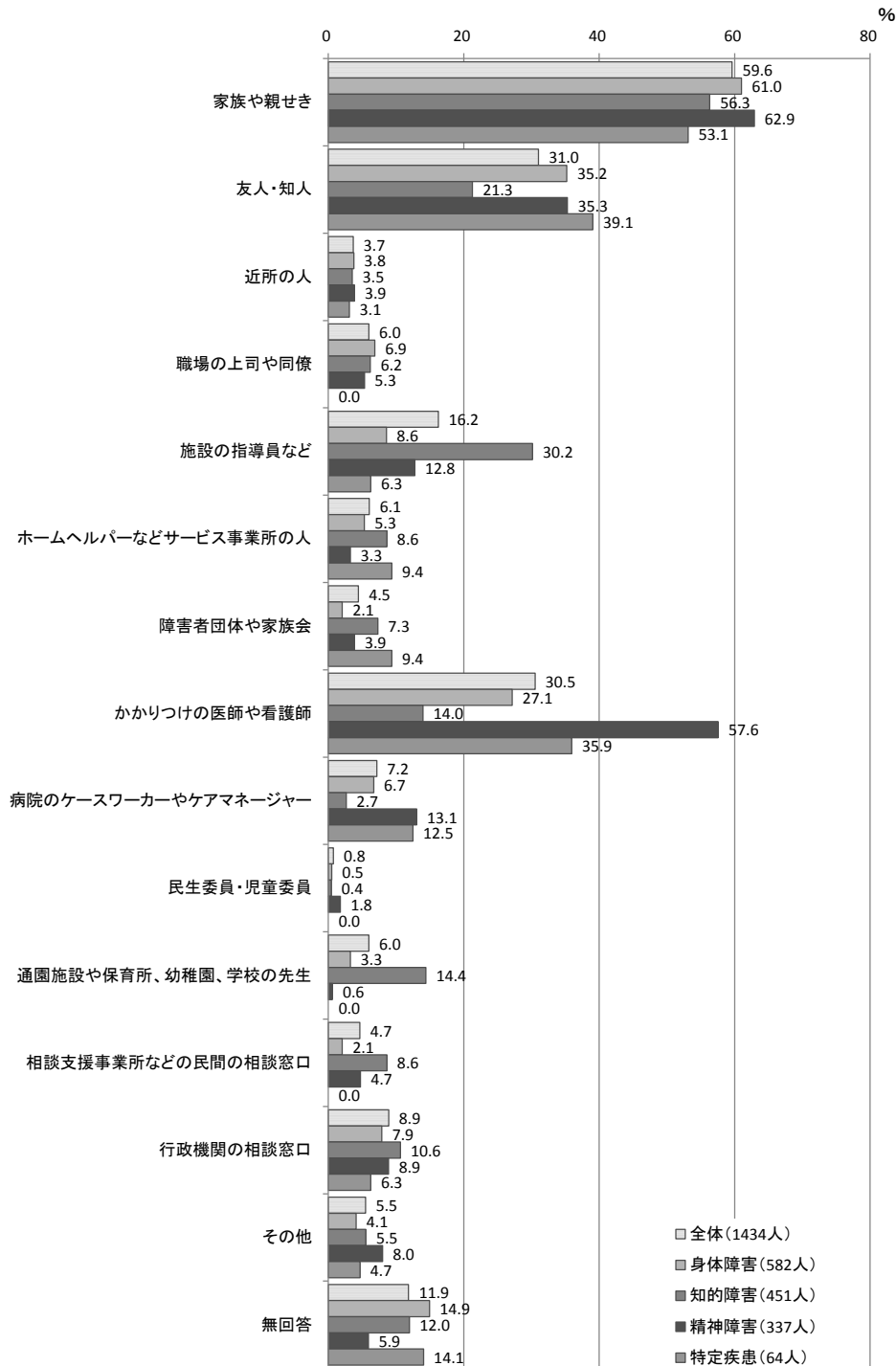


7. 相談相手や情報の入手について

(1) あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。(〇はいくつでも)

全体の59.6%が「家族や親せき」としています。また、身体障害で61.0%、知的障害で56.3%、精神障害で62.9%、特定疾患で53.1%と、いずれの障害においても「家族や親せき」が最も多くあげられています。なお、精神障害では「かかりつけの医師や看護師」(57.6%)も多くなっています。

困ったときの相談先、障害別（複数回答）

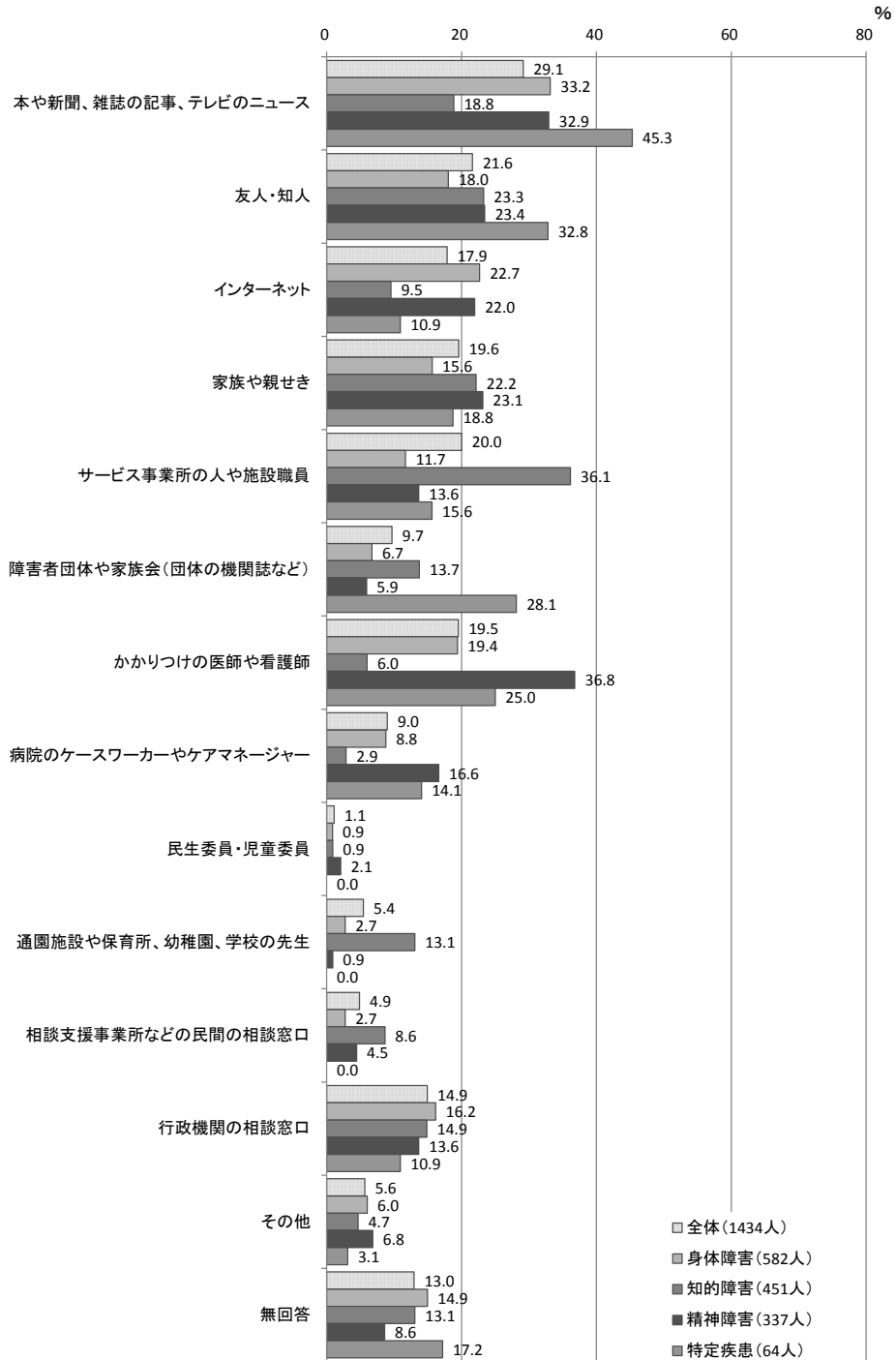


(2) あなたは障害のことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。(〇はいくつでも)

多岐にわたっていますが、「本や新聞、雑誌の記事、テレビのニュース」が最も多く、29.1%です。

「本や新聞、雑誌の記事、テレビのニュース」は、身体障害の33.2%、特定疾患の45.3%があげています。また、知的障害では「サービス事業所の人や施設職員」(36.1%)、精神障害では「かかりつけの医師や看護師」(36.8%)が最も多くあげられています。

情報入手先、障害別（複数回答）

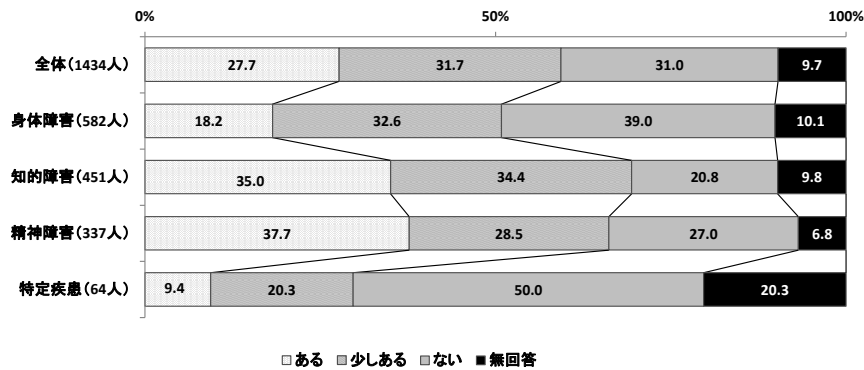


8. 権利擁護について

(1) あなたは、障害があることで差別や嫌な思いをしたり、配慮や工夫をしてもらえなくて困ったりしたことがありますか。(〇は1つ)

全体では「ある」と「少しある」を合わせて59.4%の人が困った経験があると答えました。身体障害(50.8%)や特定疾患(29.7%)では比較的少なく、知的障害(69.4%)と精神障害(66.2%)には多く見られます。

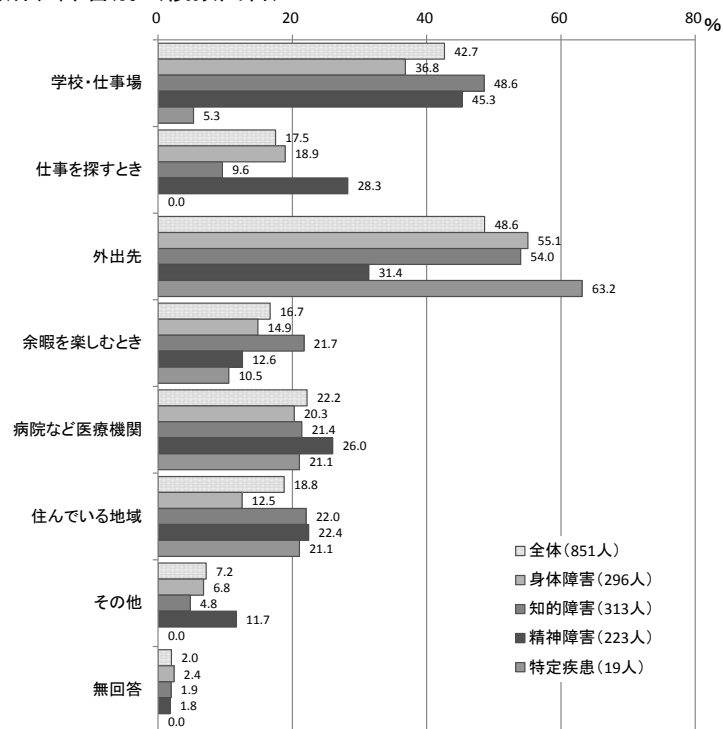
障害があることで配慮や工夫がなく困ったことの有無、障害別



(2) どのような場所で差別や嫌な思いをしたり、配慮や工夫をしてもらえなくて困ったりしましたか。(〇はいくつでも)

全体では「外出先」(48.6%)、「学校・仕事場」(42.7%)の順に多くなっています。精神障害では、「外出先」(31.4%)よりも「学校・仕事場」(45.3%)と回答する割合の方が多くなっています。

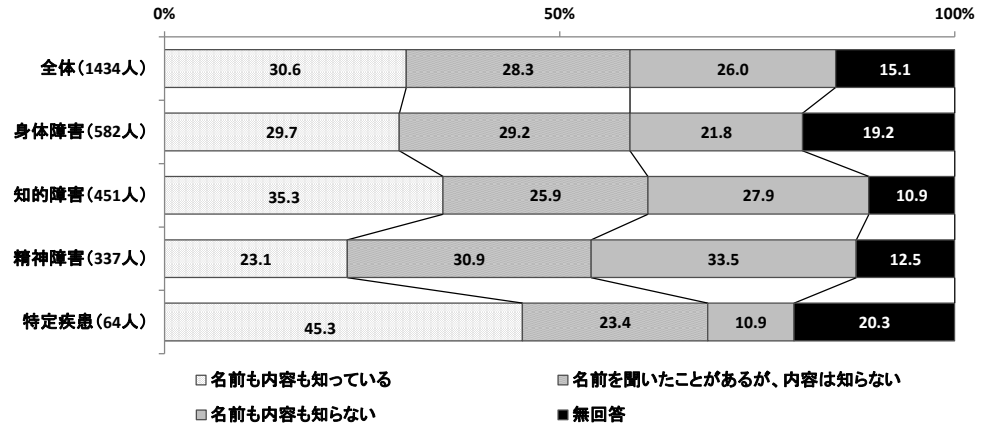
困ったりした場所、障害別(複数回答)



(3) 成年後見制度についてご存じですか。(〇は1つ)

全体では「名前も内容も知っている」が30.6%で、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」と「名前も内容も知らない」を合わせると54.3%と半数の人が内容を知らないと回答しています。

成年後見制度の認知、障害別

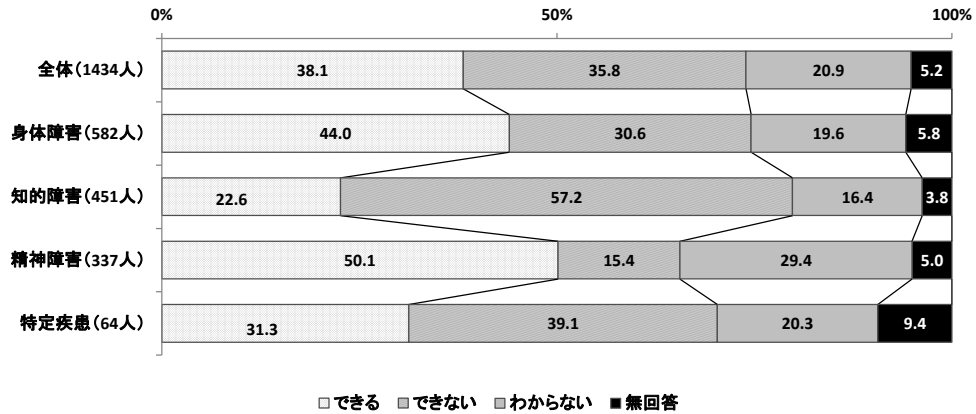


9. 災害時の避難等について

(1) あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(〇は1つ)

全体では「できる」(38.1%)と「できない」(35.8%)とほぼ同じ割合ですが、「わからない」とする人が20.9%います。知的障害では「できない」(57.2%)が多くなっています。

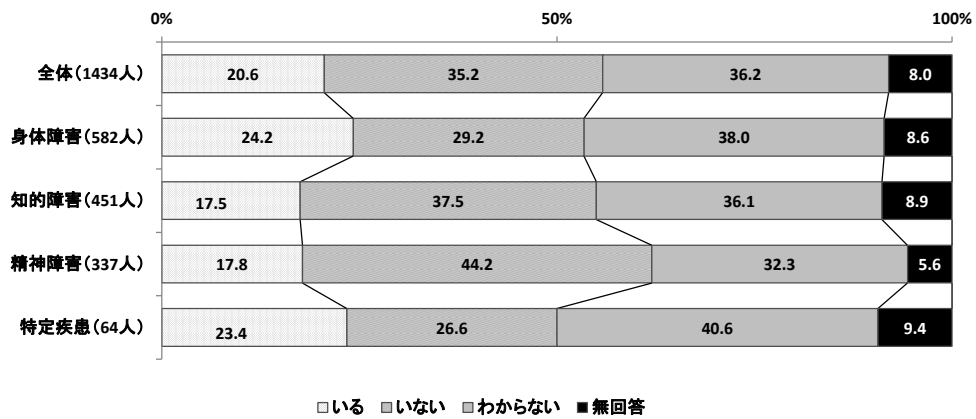
火事や地震等の災害時に一人で避難できるか、障害別



(2) 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。(〇は1つ)

全体では「いる」(20.6%)よりも「いない」(35.2%)とする割合の方が多くなっています。また「わからない」(36.2%)と回答した人も多くなっています。精神障害では「いない」とする人が44.2%と、特に多くいます。

近所にあなたを助けてくれる人はいますか、障害別



(3) 火事や地震等の災害時に不安に思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

全体では「家族と連絡が取れない」(52.5%)が最も多くなっています。知的障害では「1人では避難することができない」(56.3%)、「周囲とコミュニケーションがとれない」(49.4%)、「外出時の避難方法が不安」(48.1%)、「救助を求めることができない」(46.8%)などで他の障害よりも多くなっています。精神障害(52.8%)、特定疾患(53.1%)では「投薬や治療が受けられない」と回答した人が多くいます。

火事や地震等の災害時に不安に思うこと、障害別(複数回答)

